

# 八幡中原遺跡 5

－宅地分譲工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2014

高崎市教育委員会  
株式会社 榛名土地  
有限会社 毛野考古学研究所



## 例言

1. 本書は、宅地分譲工事に伴う八幡中原遺跡第5次調査の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本遺跡は、群馬県高崎市八幡町字中原 1276 番地 1、1280 番地 1 に所在している。
3. 本調査および整理作業は、事業者・高崎市・有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
4. 発掘調査から整理作業を経て本書刊行に至る経費は、株式会社榛名土地に負担して頂いた。
5. 発掘調査は、出口一郎・清水豊（高崎市教育委員会）の監督のもと早川麗司（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
6. 発掘調査・整理作業は、平成 25 年 8 月 26 日～平成 26 年 6 月 30 日の期間で実施した。
7. 本遺跡は、高崎市教育委員会の遺跡番号で「571」である。
8. 本調査区内で一部を確認した S B - 1 においては、その範囲確認を高崎市教育委員会が行い（第 6 次調査）、その成果の一部を本書に掲載した。
9. 本書の執筆については I 章を高崎市教育委員会、II 章、VI 章 - 1 を石丸敦史（有限会社毛野考古学研究所）、V 章 - 3 - 2 を山本ジェームズ（高崎市教育委員会）、それ以外を早川が主体となって行い石丸が補佐した。
10. 本書に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。
11. 発掘調査・整理作業に携わった方々は以下の通りである。

### 【発掘調査】

青柳美保 新井健悟 井口ヒロ子 岡村美弥子 川島隆好 北野進二 小関泰洋 齊藤清一 佐藤興雄 菅沼喜良 鈴木 正 高橋三郎 竹生正明 中島勝由 森山恵子 森山孝男

### 【整理作業】

青柳美保 磯洋子 鬼山由子 根本正子 日沖美奈子 波辺博子

## 凡例

1. 挿図中の北方位は座標北を、断面水準線数値は海拔標高を示す。座標は世界測地系を用いている。
2. 遺構図および遺物実測図の縮尺については、図中にスケールを付けて表示した。遺物観察表の計測値で用いた単位は cm、g で、( ) は復元値、[ ] は残存値を示す。遺構内床面被熱箇所についてはその範囲をトーンで図示した。
3. 土器の色調観察は「新版 標準土色帖」(農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修 2006) を用いた。
4. 土層説明における含有物の量は、多量 (50 ~ 30%)・中量 (25 ~ 15%)・少量 (10 ~ 5%)・微量 (1 ~ 3%) と表記した。
5. 本書掲載の第 1 図は高崎市発行 1/2,500「高崎市都市計画基本図」、第 2 図は、国土地理院発行 1/200,000 地勢図「長野」・「宇都宮」、第 4 図は、国土地理院発行 1/25,000 地形図「高崎」を一部改変引用した。
6. 遺構略称は、住居跡：S I、礎石建物跡：S B、土坑：S K、ピット：P とした。

## 目次

例言	
凡例	
目次	
I 調査に至る経緯	1
II 地理的・歴史的環境	2
1 地理的環境	2
2 歴史的環境	2
III 調査の方法と経過	3
1 調査の方法	3
2 調査の経過概要	4

IV 基本層序	4
V 遺構と遺物	5
1 概要	5
2 住居跡	5
3 礎石建物跡	38
4 土坑	47
5 遺構外出土遺物	48
VI まとめ	49
報告書抄録	

## 図表目次

第1図 調査区域図	1	第20図 SI-5(3)	21	第43図 礎石建物跡・割立柱建物跡配置図	62
第2図 遺跡の位置	2	第21図 SI-5出土遺物(1)	22	表1 遺跡別出土遺物量一覧	5
第3図 周辺の遺跡	3	第22図 SI-5出土遺物(2)	23	表2 SI-1出土遺物観察表	6
第4図 北本照子	4	第23図 SI-6	25	表3 SI-2出土遺物観察表	12
第5図 遺構全体図	6	第24図 SI-6出土遺物	26	表4 SI-3出土遺物観察表	13
第6図 SI-1	7	第25図 SI-7	28	表5 SI-4出土遺物観察表(1)	17
第7図 SI-1出土遺物(1)	7	第26図 SI-7出土遺物	29	表6 SI-4出土遺物観察表(2)	18
第8図 SI-1出土遺物(2)	8	第27図 SI-6(1)	31	表7 SI-5出土遺物観察表(1)	23
第9図 SI-2(1)	9	第28図 SI-8(2)	32	表8 SI-5出土遺物観察表(2)	24
第10図 SI-2出土遺物	10	第29図 SI-8(3)	33	表9 SI-6出土遺物観察表	27
第11図 SI-2(2)	11	第30図 SI-8出土遺物	33	表10 SI-7出土遺物観察表(1)	29
第12図 SI-3出土遺物	12	第31図 SI-9	35	表11 SI-7出土遺物観察表(2)	30
第13図 SI-3	13	第32図 SI-9出土遺物	36	表12 SI-8出土遺物観察表	34
第14図 SI-4	14	第33図 SI-10	37	表13 SI-9出土遺物観察表(1)	35
第15図 SI-4出土遺物(1)	15	第34図 SI-10出土遺物	37	表14 SI-10出土遺物観察表	38
第16図 SI-4出土遺物(2)	16	第35図 SB-1	40	表15 SB-1基壇上出土遺物観察表(1)	40
第17図 SI-4出土遺物(3)	17	第36図 SB-1土層断面(1)	41	表16 SB-1基壇上出土遺物観察表(2)	45
第18図 SI-5(1)	19	第37図 SB-1土層断面(2)	43	表17 SK-6出土遺物観察表	48
第19図 SI-5(2)	20	第38図 SB-1掘方	44	表18 遺構外出土遺物観察表	48
		第39図 SH-1基壇上内出土遺物	45		
		第40図 SK-6出土遺物	47		
		第41図 SK-2・SK-3・SK-6	48		
		第42図 遺構外出土遺物	48		

## 写真図版目次

PL1 調査区全景1	PL4 SI-5カマド跡部断面状況	PL6 SB-1大型掘出土状況
調査区全景2	SI-5遺物出土状況	SB-1大掘壕1
調査区全景3	SI-5掘方	SB-1大掘壕2
SI-1	SI-6遺物出土状況	SB-1大掘壕3
SI-1掘方	SI-7掘方	SB-1構築状況(1)
SI-2	SI-8	SB-1構築状況(2)
SI-2カマド	SI-8カマド	SB-1構築状況(3)
PL3 SI-2遺物出土状況	SI-8カマド	基本土層
SI-2掘方	PL5 SI-8遺物出土状況	PL7~14 出土遺物
SI-3	SI-8土層断面状況	
SI-4	SI-8掘方	
SI-4柱式系土器出土状況	SI-9カマド	
SI-4貯蔵穴遺物出土状況	SI-9遺物出土状況	
SI-4掘方	SB-1平層出土状況	
SI-5カマド	SB-1完掘状況(1)	
	SB-1完掘状況(2)	

## I 調査に至る経緯

平成 25 年 5 月、株式会社株名土地（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に宅地造成工事予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、照会地が埋蔵文化財包蔵地であり、八幡中原遺跡での 4 次の調査や隣接の七五三引遺跡等で古墳～平安時代を中心とする集落跡が検出されていた。当該地にも及ぶ可能性が高いことから、試掘調査による確認を実施し工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年 6 月 6 日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年 6 月 24 日に工事予定地の試掘調査を実施し、古墳～平安時代の遺構を確認した。

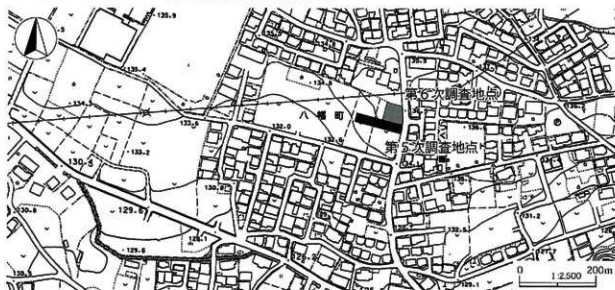
試掘結果を受けて埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、計画変更は不可能ということなので、道路建設部分に関して記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、有限会社毛野考古学研究所に委託して実施することとなり、平成 25 年 8 月 6 日付けで高崎市長・事業者・毛野考古学研究所の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成 25 年 8 月 6 日付けで事業者と毛野考古学研究所の二者で八幡中原遺跡第 5 次調査の委託契約が締結された。

調査開始まもなく、掘込み地業の大型遺構（SB-1）の存在が確認され、礎石を思わせる大型礎も検出された。遺構が北側道路敷地外の個人住宅予定地に伸びるため、個人住宅の施主（以下施主）と調整のうえで SB-1 の広がりと礎石の状態を確認するために試掘調査を実施した。

その結果、SB-1 の掘り込み規模は、南北 10 m、東西は東が道路まで延びるため不明であるが 13 m まで確認された。また、大型礎についても複数検出されたが、いずれも後世に動かされ埋め込まれた状態であった。

八幡中原遺跡周辺では、従来から掘込み地業建物や区画溝等複数検出され片岡郡衙との関わりが指摘されていた。SB-1 についても一連の遺構群と位置づくため、事業者及び施主と現状保存の協議を行ったが計画変更は難しく道路建設部分に関して記録保存、個人住宅については、遺構の保存への影響を可能な限り少なくなるように協力をいただき、遺構上部の削平部分についての発掘調査を実施することで合意し、八幡中原遺跡第 6 次調査として市教育委員会直営で実施した。



第 1 図 調査区位置図

## II 地理的・歴史的環境

### 1 地理的環境

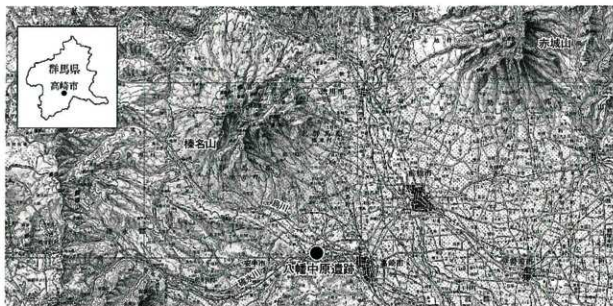
八幡中原遺跡は、東流する烏川と碓氷川とに挟まれた「八幡台地」上に位置する。その八幡台地は、西から続く秋間丘陵の先端部にあたり、その南北両側を流れる烏川および碓氷川によって急峻な河岸段丘が形成される。八幡台地は東西に延びる小支谷によって北から「剣崎支台」、「若田支台」、「八幡支台」の3つに分かれ、八幡中原遺跡は若田支台に広がる。

遺跡周辺は、標高約133～135mを計測し、おおよそ台地頂部から南斜面に差し掛かる緩斜面地に位置している。その緩斜面は南北おおよそ120m前後の幅で東西に長く延びている。近代以前と考えられる地割も各所で残っているが、近年の宅地造成によりその区画も徐々に消失しつつある。

### 2 歴史的環境

八幡中原遺跡は古墳時代から古代に至る大規模集落として著名である。それはこの地域一帯が東山道駅路「牛堀・矢ノ原ルート」と「国府ルート」との分岐点にあたる交通の要衝であったと目されることと無縁ではないだろう。八幡中原遺跡第1次調査地点では、おもに古墳時代中期から奈良時代の遺構が主体となっており、竪穴住居跡176棟、掘立柱建物跡36棟が確認されている。古墳時代中期には高坏の未焼成品が出土した167号住居跡や祭祀場の性格を有する156号住居跡などが特記される。そして古代には溝を周囲に巡らせる3号掘立柱建物跡などがあり、さらに平安時代になると竪穴住居跡が減少し、掘立柱建物跡が主体となる点は一般集落の様相とは異なる。

近年、八幡中原遺跡およびその周辺において、発掘調査が行われ八幡中原遺跡の全容が徐々に明らかとなっている。古墳時代においては、第3次・第4次調査で韓式系土器が小片ではあるが出土しており、これまで剣崎支台にある剣崎長瀬西遺跡(12)などで顕著であった渡来系遺物が八幡支台においても認められることがわかった。また、第1次調査地点から空地(第3次調査地点)を挟んで古墳時代中期の集落跡が第4次調査で確認され、複数の集落があることがわかった。第4次調査では「三ツ寺型」と呼ばれるような大型の



第2図 遺跡の位置



1.八幡中原遺跡第1次調査地点 2.八幡中原遺跡第2次調査地点 3.八幡中原遺跡第3次調査地点 4.八幡中原遺跡第4次調査地点 5.八幡中原遺跡第5次調査地点 6.七五三引遺跡 7.車輪6万馬遺跡 8.若沼原敷1-1遺跡 9.若沼大塚古墳 10.新ノ木古墳 11.若田原古墳 12.新時長赤塚遺跡 13.新時長津留古墳 14.大舟原遺跡 15.朝崎稲荷塚遺跡 16.朝崎稲荷塚遺跡2 17.朝崎稲荷塚遺跡3 18.朝崎天神山古墳 19.引間1遺跡 20.引間2遺跡 21.上巻引間古遺跡 22.引間古遺跡 23.上巻引間古遺跡 24.盤岡後1-1遺跡 25.下巻岡後原遺跡 26.八幡六枚遺跡 27.取ノ市遺跡 28.八幡遺跡 29.平塚古墳 30.二子塚古墳 八幡二子塚遺跡 31.鎌倉古墳 32.船所塚古墳

第3図 周辺の遺跡

高坪が出土しており、これらが「国府ルート」に重なるように広がることは、前代、古墳時代からの関係性を考えるうえで示唆的な資料である。

古代では第3次調査地点で方形の掘り込み地業のほか礎石の可能性が考えられる大型の礎が各所で検出された。同様の掘り込み地業は七五三引遺跡(6)でも以前の調査で確認されており、関連性が想定される。また八幡六枚遺跡(26)では「片罡(四)影」と線刻された須臾器大甕片が住居跡内から出土している。その他、八幡中原遺跡第4次調査地点では溝掘土中から門面視が出土している。このように近年の調査成果によってこの一帯が片岡邸街との関連が想定されることがわかってきた。

### Ⅲ 調査の方法と経過

#### 1 調査の方法

表土除去は、0.25㎡バックホーを用いて行った。それぞれ表土除去後、人力による遺構検出および遺構掘削を行った。遺構掘削は、適宜ベルト設定および半級を行い、土層堆積状況を記録した。

遺構測量は、トータルステーションおよび電子平板を用い、平面図を作成した。断面図は遺り方測量で行った。各測量データはDXF形式に書き出すことによって汎用性を持たせた。なお座標は世界測地系を使用した。遺構写真は、調査の進捗状況に応じて行い、35mmモノクロ・35mmカラーリバーサル・デジタルカメラ(1200万画素相当)を使用した。

遺物接合は、溶剤系接着剤(セメダインC)を用い、エポキシ系樹脂で部分的に補強した。遺物の写真撮

影は、センサーサイズ APSC のものを使用した (Nikon D7000)。遺構・遺物トレース、写真加工、版組はそれぞれ Adobe IllustratorCS2、Adobe PhotoshopCS6、Adobe InDesignCS2 を使用した。

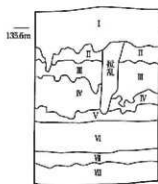
## 2 調査の経過概要

現地での発掘調査は 2013 年 9 月 17 日～2013 年 10 月 10 日まで行った。

- 9 月 17 日 機材・仮設トイレ搬入。
- 9 月 18 日 重機による表土除去作業。
- 9 月 19 日 重機による表土除去作業完了。作業員による遺構検出作業。
- 9 月 20 日 遺構掘削継続。土坑の調査を順次行っていく。
- 9 月 24 日 南調査区東側低地部分をトレンチにより遺構確認を行う。
- 9 月 26 日 北調査区遺構確認ののち遺構掘削開始。
- 9 月 30 日 検出された遺構を全て完掘。全景写真撮影。
- 10 月 1 日 補足調査開始。風倒木痕内の遺構確認作業。
- 10 月 7 日 高崎市による完了検査。
- 10 月 9 日 補足測量。機材・仮設トイレ等撤収。
- 10 月 10 日 現場引渡し作業。現場作業完了。

## IV 基本層序

基本層序は調査区中央北面にトレンチを設定し把握した。その層状は南に接する第 4 次調査とはほぼ同一であった。I 層はおもに耕作土で、As - A 軽石 (浅間 A 軽石) と As - B 軽石 (浅間 B 軽石) が混在する。ただし一部において I 層底面に As - B 軽石の一次堆積層が確認された。II 層は黒褐色土層で、As - C 軽石 (浅間 C 軽石) の可能性が考えられる白色粒子が認められる。多くの遺構はその上面で検出できた。しかし、部分的に II 層が厚く堆積する箇所は、上から II a・II b 層に分けられ、ローム層との漸移層となる II b 層上面が遺構検出面となる古墳時代の遺構もあった。II 層以下はソフトローム層の III 層、ハードローム層の IV 層が堆積し、その下に As - YP (浅間 - 板鼻黄褐色軽石) が認められる。

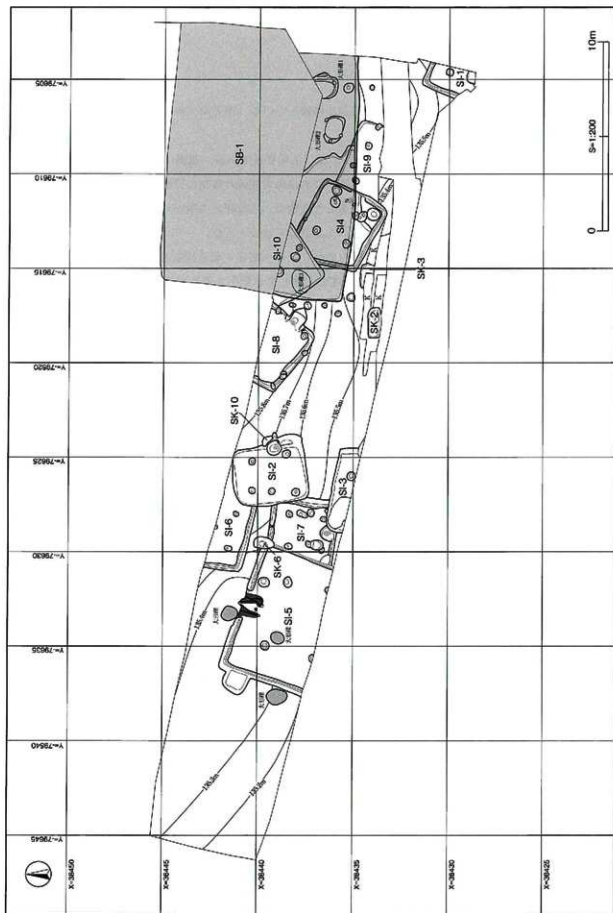


- I. 灰黄褐色土 (10YR4/2) As-A・As-B 含む。しまり弱い。表土層。
- II a. 黒褐色土 (10YR3/2) 上面遺構検出面。
- II b. 黒褐色土 ローム粒子を含む。ローム層との漸移層。部分的に認められる。一部の遺構検出面。
- III. ぶい黄褐色土 (10YR5/3) ソフトローム層。(八幡中原遺跡 4-III 層)
- IV. 黄褐色土 (10YR5/6) ハードローム層。(八幡中原遺跡 4-IV 層)
- V. As-YP 層 (八幡中原遺跡 4-X 層)
- VI. As-YP 層。V 層より白色の軽石含む。(八幡中原遺跡 4-X 層)
- VII. 明黄褐色土 (10YR7/6) 粘土層。(八幡中原遺跡 4-X I 層)
- VIII. ぶい黄褐色土 (10YR7/3) 粘土層。VII 層より白色を帯びる。(八幡中原遺跡 4-X II 層)

第 4 図 基本層序







第5図 遺構全体図

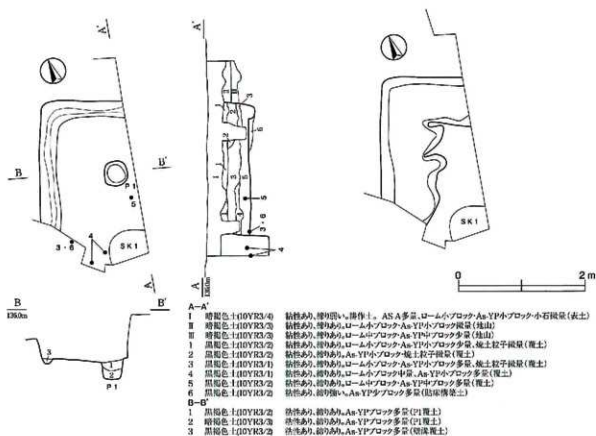
As - YP 軽石ブロックが多量に含まれているのが特徴である。

住居掘方は As - YP 軽石層まで達しており、壁跡だけ掘られ中央部が鳥状に残されている。

遺物所見 遺物はすべて覆土中から出土している。土器片の多くは細片もしくは小片であり、完形品は無い。

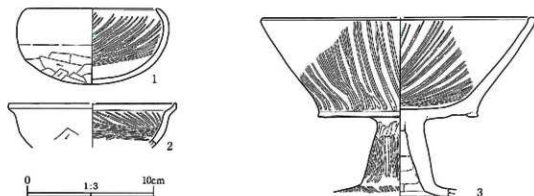
土師器の甕(4)と石製模造品(6)が覆土下層から出土している。

時期 出土した土器から5世紀後半に位置づけられる。

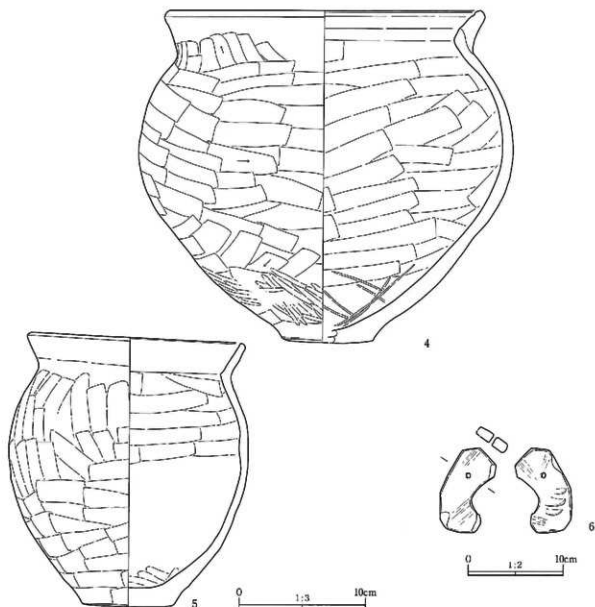


- |     |               |   |
|-----|---------------|---|
| 1   | 暗褐色土(10YR3/4) | 粘質あり、埴り強い。操作土。AS A 多量、ローム小ブロック・As YP 小ブロック 小石混入(表土) |
| II  | 暗褐色土(10YR3/2) | 粘質あり、埴りあり。ローム小ブロック・As YP 小ブロック 混入(埴土)               |
| III | 暗褐色土(10YR3/2) | 粘質あり、埴りあり。ローム小ブロック・As YP 中ブロック 多量(埴土)               |
| 1   | 黒褐色土(10YR3/2) | 粘質あり、埴りあり。ローム小ブロック・As YP 小ブロック 少量、粘土粒子混入(覆土)        |
| 2   | 黒褐色土(10YR3/2) | 粘質あり、埴りあり。As YP 小ブロック 粘土粒子混入(覆土)                    |
| 3   | 黒褐色土(10YR3/1) | 粘質あり、埴りあり。ローム小ブロック・As YP 小ブロック 多量、粘土粒子混入(覆土)        |
| 4   | 黒褐色土(10YR3/1) | 粘質あり、埴りあり。ローム小ブロック 中量、As YP 中ブロック 多量(覆土)            |
| 5   | 黒褐色土(10YR3/2) | 粘質あり、埴りあり。ローム小ブロック・As YP 中ブロック 多量(覆土)               |
| 6   | 黒褐色土(10YR3/2) | 粘質あり、埴り強い。As YP 中ブロック 多量(埴土)                        |
- 
- |      |               |                              |
|------|---------------|------------------------------|
| B-B' |               |                              |
| 1    | 黒褐色土(10YR3/2) | 粘質あり、埴りあり。As YP 中ブロック 多量(覆土) |
| 2    | 暗褐色土(10YR3/2) | 粘質あり、埴りあり。As YP 中ブロック 多量(覆土) |
| 3    | 黒褐色土(10YR3/2) | 粘質あり、埴りあり。As YP 中ブロック 多量(埴土) |

第6図 SI - 1



第7図 SI - 1 出土遺物(1)



第8図 SI-1出土遺物(2)

表2 SI-1出土遺物観察表

遺物№	器種	法成	①焼成(石材)②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 罎	口径 10.2 底径 - 器高 6.0	①陶化磁器明赤色 ②白色粒子、角閃石 ③粒径不定形	外面：口縁部積位ナシ。体一底部ヘラケズリ。 内面：上半部文状ミガキ。	
2	土師器 罎	口径 13.1 底径 - 器高 13.5	①陶化磁器明赤色 ②赤褐色粒子、角閃石 ③口径一底部1/3	外面：口縁部積位ナシ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部積位ナシ。体部文状ミガキ。	
3	土師器 高罎	口径 12.2 底径 - 器高 14.2	①陶化磁器赤 ②白色粒子、角閃石 ③口径一底部1/3	外面：体部積位ナシ。体部ヘラケズリ。 内面：体部積位ナシ。体部文状ミガキ。	
4	土師器 罎	口径 24.5 底径 7.0 器高 26.4	①陶化磁器赤 ②白色・赤褐色 ③口径一底部2/3	外面：口縁部ナシ。体一底部ヘラケズリ。底部まばらナシ。 内面：口縁部積位ナシ。体一底部ヘラケズリ。	
5	土師器 罎	口径 16.6 底径 7.0 器高 21.7	①陶化磁器明赤色 ②白色・黒色粒 ③粒径不定形	外面：口縁部積位ナシ。体部上半部ヘラケズリ。下半部積位ヘラケズリ。 内面：口縁部積位ナシ。体部積位ヘラケズリ。	
6	石質品 勾玉	長さ 4.6 厚さ 0.5 重量 10.2	①滑石質 ②残存	片断破孔。表裏面、側面磨削。裏面磨痕あり。	

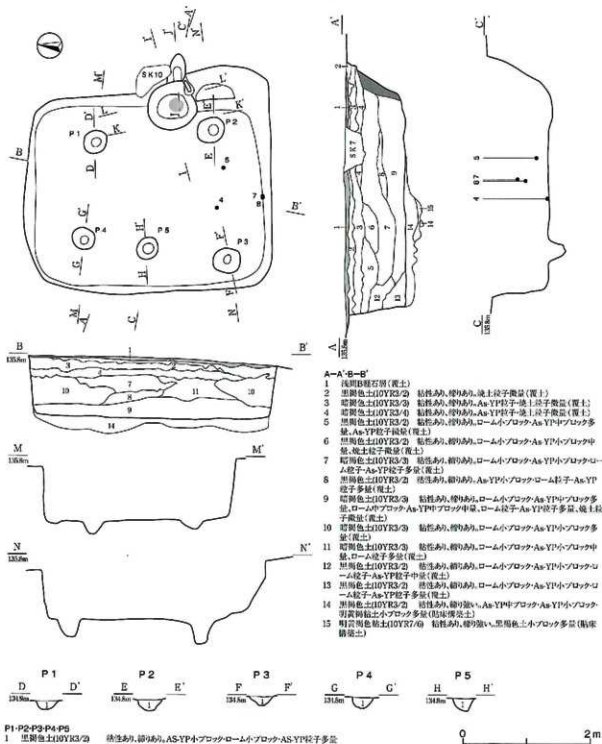
SI-2 (第9・10・11回)

平面形態 南北に長い長方形である。

規模 長軸 391 m、短軸 352 mである。

主軸方向 N-92°-Eである。

遺構所見 重葺関係はSI-6・7より新しく、SK-7・10より古い。SK-7の覆土は締りが弱く、浅間A軽石が多量に含まれており、18世紀後半以降の土坑と考えられる。



第9回 SI-2 (1)

床は北壁際と東壁際のみ地山のAs - YP 軽石層をそのまま使用し、それ以外は貼り床である。貼り床は、As - YP 軽石ブロックおよび明黄褐色粘土ブロックを多量に含む黒褐色土と明黄褐色粘土で構築されている。カマド前面からP 1～P 4の内側に硬化面が広がる。壁高は最大95cmである。

ピットは5か所確認した。P 1は長径40cm、短径35cm、深さ14cm、P 2は長径45cm、短径40cm、深さ19cm、P 3は長径43cm、短径40cm、深さ15cm、P 4は長径38cm、短径34cm、深さ18cmである。P 1～P 4は位置から支柱穴と考えられる。P 5は長径35cm、短径32cm、深さ19cmで、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

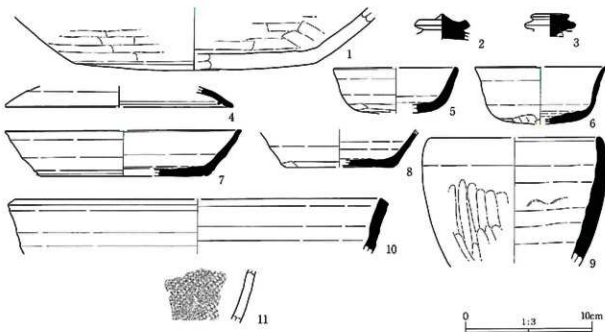
カマド右袖部脇の壁には、床面から15cm上の位置にAs - YP 軽石層を整形した平坦面がある。この平坦面は棚状施設と考えられる。

覆土は13層に分層できる。黒褐色土と暗褐色土を基調としており、最上層には、浅間B 軽石が堆積して層を形成している。それ以外の覆土は人為堆積と考えられ、特に第5層から第13層までは、ロームブロックとAs - YP 軽石ブロックが多量に含まれているのが特徴である。

カマドは東壁のやや南寄りに付設されている。煙道部は、確認面の黒褐色土からAs - YP 軽石層まで掘り込み、地山に粘土を貼り付けて構築している。粘土は強く焼けており、赤変している。火床部はAs - YP 軽石層をそのまま使用している。床面の高さより皿状にくぼんでおり、一部強く焼けて赤変している。袖部は右袖部だけが残っており、粘土をAs - YP 軽石層の上に積み上げて構築している。袖部の内側は、強く焼けて赤変している。カマド土層断面の第4層は灰層である。その上に堆積している第1・2・6層は、天井部等のカマド構築材が崩落したものと考えられる。第3層と第5層は人為堆積と考えられる覆土である。

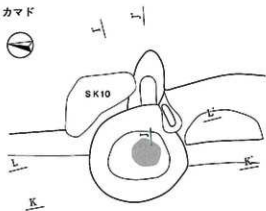
住居掘方はAs - YP 軽石層まで達しており、北壁際と東壁際を残して平坦に掘り下げられている。P 6～P 9は、さらに明黄褐色粘土層まで深く掘られている。

遺物所見 遺物は覆土中を中心に出土しており、床面から出土したものは少ない。土器片の多くは細片もしくは小片であり、完形品は無い。須恵器の壺(4)が床面から、須恵器の坏(5)が床面から約50cm上ま



第10図 SI - 2 出土遺物

カマド



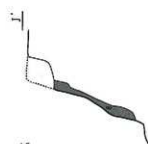
L

L  
135cm



L

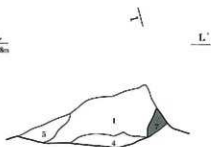
135cm



J

135cm

0 1m



K  
135cm

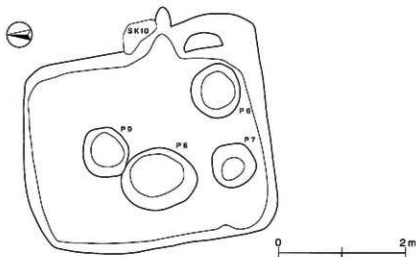
K'



カマド

- 1 明黄色色粘土(10YR7/6) 粘性強い、締り強い、カマド焼成材。
- 2 明黄色色粘土(10YR7/6)と黒褐色土(10YR3/2)の混合土、粘性強い、締り強い、カマド焼成材。
- 3 黒褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、As-YF粒子・焼土粒子・焼土粒の存在
- 4 灰白(10YRZ/1) 粘性なし、締り弱い、焼土粒子多量、焼土小ブロック・炭化灰粒子中量、As-YF粒子少量、灰粒。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり、ローム小ブロック・As-YF小ブロック中量
- 6 赤褐色(2.5YR4/6) 粘性強い、締り強い、赤灰、土粒、カマド焼成材。
- 7 赤褐色(2.5YR4/6) 粘性強い、締り強い、As-YF小ブロック少量、焼成部。
- 8 赤褐色(2.5YR4/6) 粘性強い、締り強い、ローム小ブロック・As-YF小ブロック微量、焼成部。

掘方



0 2m

第11図 SI-2 (2)

での人為堆積土中から出土している。

時期 出土した遺物から本住居跡は7世紀末に位置づけられる。なお11の韓式系土器は混入と判断される。

表3 SI-2 出土遺物観察表

遺物No	器種	法量	①地成(石片) ②土色 ③胎土 ④胎存	成・製成技法の特征	備考
1	土加勢 夾か	口径 - 底径 (18.8) 器高 (5.0)	①酸化腐食表面 ②白色・赤褐色粒 ③胎部~底部1/4	外側：ヘラナデ。胎部と底部の境、不明確。 内側：ヘラナデ。胎部と底部の境、ナデ陶肉。	
2	煎豆跡 盆	口径 4.3 底径 - 器高 (2.1)	①還元胎土灰白 ②褐色・白色粒子 ③胎部~底部1/4	外側：ロクロ製胎。シャープな縁あり。 内側：ロクロ製胎。	
3	煎豆跡 盆	口径 (4.0) 底径 - 器高 (1.8)	①還元胎(酸化灰白) ②褐色 ③白色・褐色色粒子 ④胎部~底部1/4	外側：ロクロ製胎。 内側：ロクロ製胎。	
4	煎豆跡 盆	口径 (17.8) 底径 - 器高 (1.7)	①還元胎土灰白 ②褐色・白色粒子 ③口径部1/4	外側：ロクロ製胎。 内側：ロクロ製胎。	
5	煎豆跡 坪	口径 (9.5) 底径 - 器高 (3.6)	①還元胎土灰白 ②白色・褐色粒子 ③口径~底部1/3	外側：ロクロ製胎。体~底部手持ちヘラナデリ。 内側：ロクロ製胎。	
6	煎豆跡 坪	口径 (10.2) 底径 - 器高 (4.6)	①還元胎土灰白 ②白色・褐色粒子 ③口径~底部1/2	外側：ロクロ製胎。底部手持ちヘラナデリ。 内側：ロクロ製胎。	
7	煎豆跡 坪	口径 (18.4) 底径 (13.0) 器高 (3.7)	①還元胎(酸化灰白) ②灰白 ③白色粒 ④口径~底部1/2	外側：ロクロ製胎。高直部取り出し。 内側：ロクロ製胎。	SI-8 土柱と統合。
8	煎豆跡 坪	口径 - 底径 (8.4) 器高 (3.0)	①還元胎土灰白 ②褐色・白色粒子 ③口径~底部1/6	外側：ロクロ製胎。体部下部ヘラナデリ。底部扁平ヘラナデリ。 内側：ロクロ製胎。	
9	煎豆跡 坪	口径 (13.3) 底径 - 器高 (10.3)	①還元胎土灰白 ②褐色・白色粒子 ③口径~底部1/6	外側：口径部傾斜ナデ。胎部傾斜ナデ。 内側：傾斜ナデ。器肉凹凸なす。	
10	煎豆跡 坪	口径 (10.0) 底径 - 器高 (4.3)	①還元胎土に赤い霞 ②白色粒子・褐色粒 ③口径部1/12	外側：ロクロ製胎。11径側面をもつ。 内側：ロクロ製胎。	
11	韓式系土器	口径 - 底径 - 器高 -	①還元胎土に赤い霞 ②褐色・赤褐色粒子 ③胎部	外側：縦格子状タタキ目。 内側：ヘラナデ。	

### SI-3 (第12-13図)

平面形態 不明

規模 不明

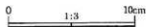
遺構所見 南側は調査区域外に延びている。重複関係はSI-7より新しい。床は貼り床で、黒褐色土とロームの混合土で構築されており、硬く締まっている。壁高は最大42cmである。P1は長径47cm、短径45cm、深さ37cmである。P1は位置から主柱穴の可能性が考えられる。

覆土は5層に分層できる。黒褐色土と暗褐色土を基調としており、部分的に攪乱されている。他の住居跡と比べて、As-YF軽石ブロックとロームブロックの含有量が少ないのが特徴である。

住居掘方はハードローム層まで達しており、P1の周囲を壁際より一段低く掘り下げている。

遺物所見 遺物はすべて覆土中から出土している。土器片の多くは細片もしくは小片であり、完形品は無い。

時期 出土した土器から7世紀末に位置づけられる。なお2の弥生土器は混入と考えられる。

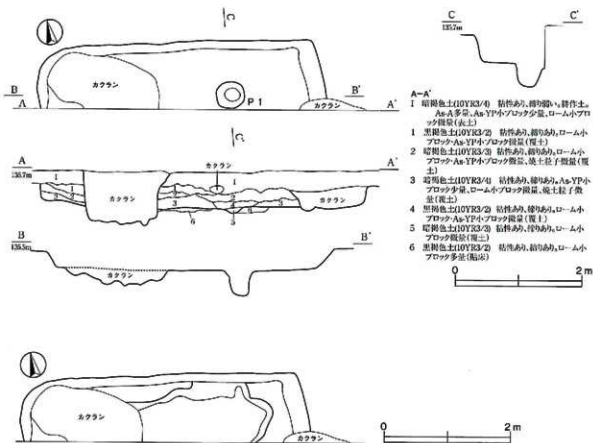


第12図 SI-3 出土遺物



表4 SI-3出土遺物観察表

遺物No	品名	法定	①破産(石片)②赤色武蔵土③共存	産・形・技法の特徴	備考
1	土師器 埴 埴	口径(55cm) 底径(45cm) 高さ(32cm)	①破産(石片)②赤色武蔵土③共存 赤褐色に赤い地 赤褐色、白色地 ③口径-体部1/6	外蓋:11層層積状ナデ。体部ヘラケスリ。 内蓋:ナデ。	
2	弥生 竈	口径 - 底径 - 高さ -	①破産(石片)②赤色武蔵土③共存 赤褐色に赤い地 赤褐色、白色地 ③口径-体部1/6	外蓋:6条一平段の段面による波状文。 内蓋:ナデ。	



第13図 SI-3

SI-4 (第14・15・16・17図)

平面形態 東西に長い長方形である。

規模 長軸4.36m、短軸3.83mである。

主軸方向 N-117°-Eである。

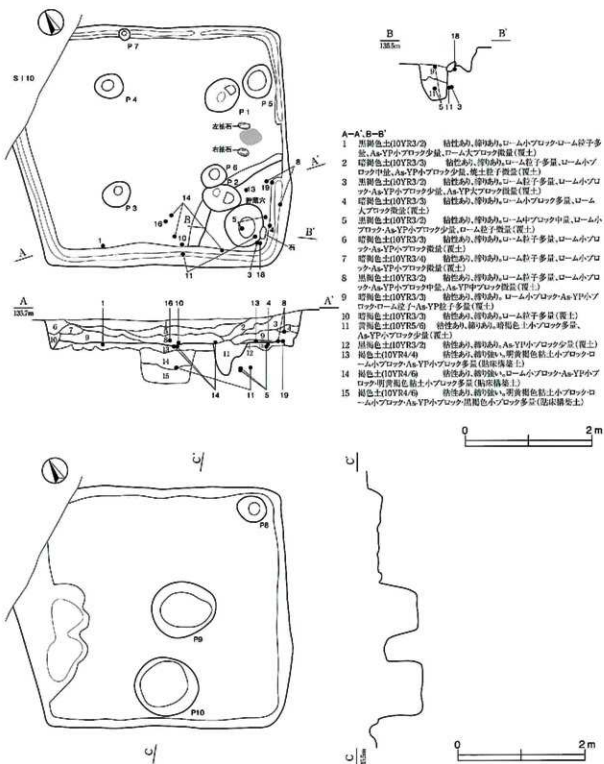
遺構所見 重複関係はSI-9より新しく、SB-1、SI-10より古い。北側の大部分がSB-1の下層に位置する。床は貼り床で、カマド前面からP1~P4の内側に硬化面が広がる。壁高は最大51cmである。

ピットは7か所確認した。P1は長径60cm、短径49cm、P2は長径61cm、短径44cm、P3は長径46cm、短径39cmである。P1~P4は位置から主柱穴と考えられる。P5は長径55cm、短径46cm、P6は長径40cm、短径34cm、P7は長径19cm、短径17cmである。P5~P7の性格は不明である。貯蔵穴は、南西コーナー隅に位置し、その周囲は床面より一段高くなっている。その規模は長径70cm、短径65cm、深さ56cmである。

覆土は11層に分層できる。黒褐色土と暗褐色土を基調としており、P2と貯蔵穴の最下層の第11層は、ロー

ムである。

カマドは東壁中央に付設されている。袖石と考えられる礫が立ったままの状態出土している。袖石と袖石の間の火床部は、床面とほぼ同じ高さであり強く焼けて赤変している。煙道部や天井部等は確認できない。住居掘方はAs-YP軽石層まで達しており、平坦に掘り下げられている。P9・P10は、さらに明黄褐色粘土層まで深く掘られている。貼り床は、As-YP軽石ブロックとロームブロックおよび明黄褐色粘土

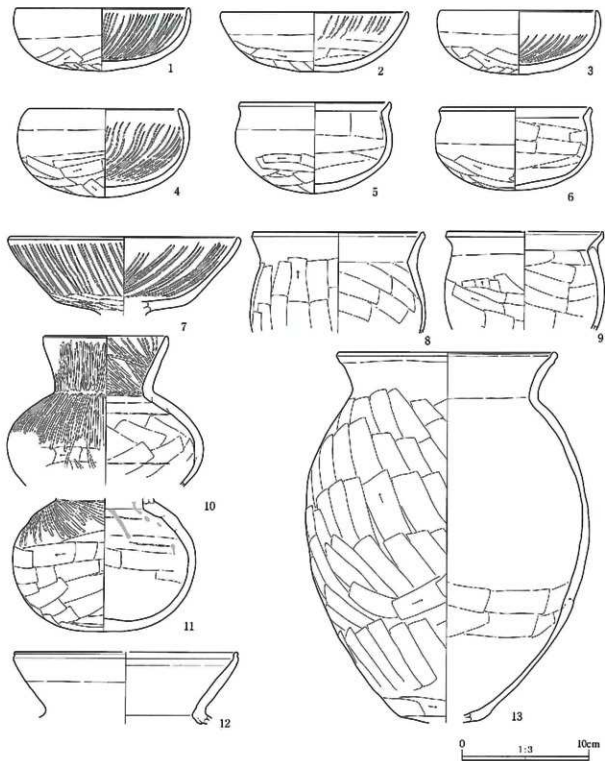


第14図 SI-4

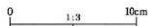
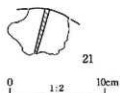
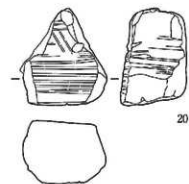
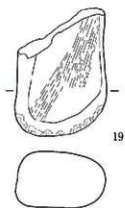
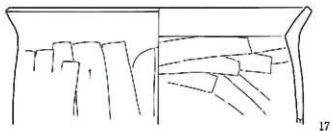
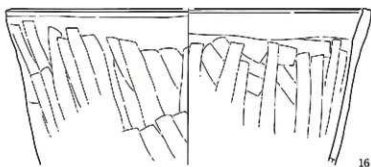
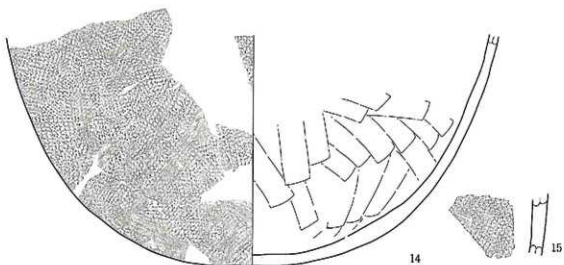
ブロックを多量に含む黒褐色土と褐色土で構築されている。

遺物所見 遺物は覆土中を中心に出土しているが、床面からの出土も多い。覆土中から出土した土器片は細片もしくは小片であり、覆土下層から床面にかけて大きな破片や完形品が出土している。完形の土師器坏が、東壁際と南壁際の床面からそれぞれ出土している。韓式系土器(14)は床面から出土している。

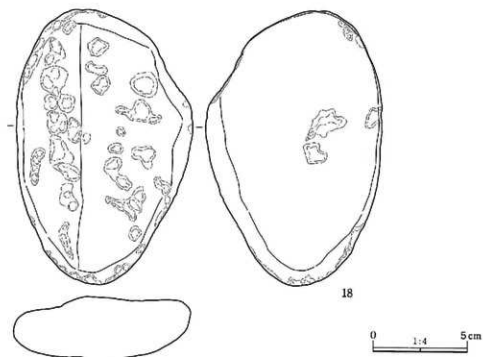
時期 出土した土器から5世紀後半に位置づけられる。



第15図 SI-4 出土遺物(1)



第 16 图 SI - 4 出土遺物 (2)



第17図 SI-4出土遺物(3)

表5 SI-4出土遺物観察表(1)

遺物No.	器種	経緯	①構成(石材) ②色調・胎土③形状	④・⑤形状の特征	備考
1	土師器 杯	口径 137 底径 - 器高 50	①還元磁器・赤褐色 ②白色・赤色粒子, 角閃石 ③定形	外面: 口縁部傾位ナダ。底部ヘラケズリ。 内面: 染色状ミガキ。	
2	土師器 杯	口径 148 底径 48 器高 48	①還元磁器に赤い霞 染角閃石, 白色粒子 ②口縁部傾位ナダ	外面: 口縁部傾位ナダ。底部ヘラケズリ。 内面: ヘラナダ後, 染色状ミガキ。	船場内出土。
3	土師器 杯	口径 123 底径 - 器高 51	①還元磁器に赤い赤褐色 白色粒子, 角閃石 ②口縁-底部2/4	外面: 口縁部傾位ナダ。底部ヘラケズリ。 内面: 染色状ミガキ。	船場大内出土。
4	土師器 杯	口径 119 底径 - 器高 70	①還元磁器・赤褐色 ②白色・赤褐色粒, 角閃石 ③定形	外面: 口縁部傾位ナダ。底部下半-底部ヘラケズリ。 内面: 放射状ミガキ。	
5	土師器 杯	口径 118 底径 - 器高 72	①還元磁器に赤い赤褐色 ②白色・赤褐色粒, 角閃石 ③定形	外面: 口縁-口縁部傾位ナダ。底部下半-底部ヘラケズリ。口縁部 つまみ出し。 内面: 放射状ミガキ。	
6	土師器 杯	口径 117 底径 - 器高 66	①還元磁器に赤い赤褐色 ②白色・赤褐色粒 ③口縁-底部2/3	外面: 口縁-口縁部傾位ナダ。底部ヘラケズリ。口縁部 つまみ出し。 内面: 口縁部傾位ナダ。底部ヘラケズリ。	
7	土師器 高杯	口径 (18.0) 底径 - 器高 (6.2)	①還元磁器に赤い赤褐色 ②白色・赤褐色粒, 角閃石 ③杯底2/3	外面: 放射状ミガキ。下部部ヘラケズリ。 内面: 染色状ミガキ。	カマド内出土。
8	土師器 小壺	口径 134 底径 - 器高 (8.0)	①還元磁器に赤い赤褐色 ②白色・赤褐色粒 ③口縁-底部	外面: 口縁部傾位ナダ。底部つまみ出し。口縁部 つまみ出し。 内面: 口縁部傾位ナダ。底部ヘラケズリ。	カマド内出土。
9	土師器 小壺	口径 122 底径 - 器高 (7.8)	①還元磁器に赤い赤褐色 ②白色・赤褐色粒 ③口縁-底部1/2	外面: 口縁部傾位ナダ。底部つまみ出し。底部ヘラケズリ。 内面: 口縁部傾位ナダ。底部ヘラケズリ。	
10	土師器 壺	口径 (9.6) 底径 - 器高 (11.9)	①還元磁器 ②白色・赤褐色粒 ③口縁-底部	外面: 口縁部傾位ナダ。底部つまみ出し。口縁部 つまみ出し。 内面: 口縁部傾位ナダ。底部ヘラケズリ。	
11	土師器 壺	口径 - 底径 - 器高 (10.5)	①還元磁器に赤い赤褐色 ②白色・赤褐色・黒色粒子 ③杯底3/4	外面: 上部上ナミガキ。口縁部下半-底部ヘラケズリ。 内面: ヘラケズリ。上半に黒色粒状物。	
12	土師器 壺	口径 (17.4) 底径 - 器高 (5.7)	①還元磁器 ②赤褐色, 角閃石, 赤褐色粒 ③口縁部1/3	外面: 傾位ナダ。口縁部傾位ナダ。 内面: 傾位ナダ。	
13	土師器 壺	口径 169 底径 6.8 器高 (29.3)	①還元磁器に赤い赤褐色 ②赤褐色, 白色粒 ③口縁部傾位ナダ	外面: 口縁部傾位ナダ。傾位ナダヘラケズリ。 内面: 口縁部傾位ナダ。傾位ナダ。底部下半-底部ヘラケズリ。	船場内出土。
14	甕式土師器 甕か	口径 - 底径 - 器高 (18.3)	①還元磁器 ②赤褐色 ③口縁部下半-底部	外面: 傾位ナダ。傾位ナダヘラケズリ。 内面: ヘラケズリ。	
15	甕式土師器 甕か	口径 - 底径 - 器高 -	①還元磁器に赤い赤褐色 ②赤褐色 ③口縁部下半-底部	外面: 傾位ナダ。傾位ナダヘラケズリ。 内面: ナダ。	
16	土師器 壺	口径 (27.9) 底径 - 器高 (12.4)	①還元磁器に赤い赤褐色 ②赤褐色, 白色, 赤褐色粒 ③口縁-傾位ナダ	外面: 口縁部傾位ナダ。傾位ナダヘラケズリ。 内面: 口縁部傾位ナダ。傾位ナダ。傾位ナダ。	船場内出土。

表6 SI-4出土遺物観察表(2)

遺物No	器種	数量	①完成(石種) ②色澤③胎土④残存	⑤- 観察技法の特徴	備考
17	土器 壺	口径 13.4 底径 9.3 器高 19.3	①白色(胎土) ②白色、赤褐色胎土 ③口縁一部割片1/3	外壁:1/3部部底径ナテ、胴部ヘララスリ。 内面:1/3部部底径ナテ、胴部ヘラナス。	SB-1 遺棄土器出土。
18	台石	長さ 29.2 幅 19.2 厚さ 4.5 重量 2090	①灰白骨状。 ②欠存。	表面:股打面を全面に有する。中央部は積をなし、後部分を強く企鵞は島状に変色している。 裏面:一部に股打面を有する。	
19	磨石	長さ 10.2 幅 7.3 厚さ 4.5 重量 101.3	①灰白骨状。 ②上段欠損。	表面に緑色砥屑、黒靨に股打面を有する。	
20	砥石	長さ 7.7 幅 6.9 厚さ 5.0 重量 133.9	①黒石。 ②欠損。	表面、裏面に段状砥。	
21	洗滌	長さ 12.5 幅 13.3 厚さ 0.2 重量 13.6	③灰胎。	表面、背面。 背面は流動する。	

## SI-5 (第18・19・20・21・22図)

平面形態 不明

規模 東西長7.42mである。

主軸方向 N-19°-Eである。

遺構所見 南側は調査区域外に延びている。重複関係はSI-7より新しく、SK-6より古い。そのほか、浅間A軽石が多量に含まれている複数の土坑に掘り込まれている。

その中で、カマド左袖部脇、中央部、西壁の外側にそれぞれ位置する3基の土坑からは、直径100cm～129cm、短径83cm～85cmの大型の礫がそれぞれ1個ずつ出土している(第5図参照)。特に中央部から出土した礫は、表面が剝落しており、自然面は一部しか残っていない。全面も変色しているため、火を受けているものと考えられる。それ以外の2個の礫も赤変している。これらの礫は、土坑に落とす込まれており、原位置からは動かされているが、3個が近接して出土していることから、近くに礎石建物跡が配置されていることが推測できる。

床は貼り床で、カマド前面からP1～P4の内側に硬化面が広がる。壁高は最大86cmである。壁溝は各壁下で確認した。

ピットは4か所確認した。P1は長径56cm、短径44cm、深さ20cm、P2は東西径32cm、深さ50cm、P3は東西径40cm、深さ66cm、P4は長径50cm、短径44cm、深さ15cmである。P1～P4は位置から主柱穴と考えられる。

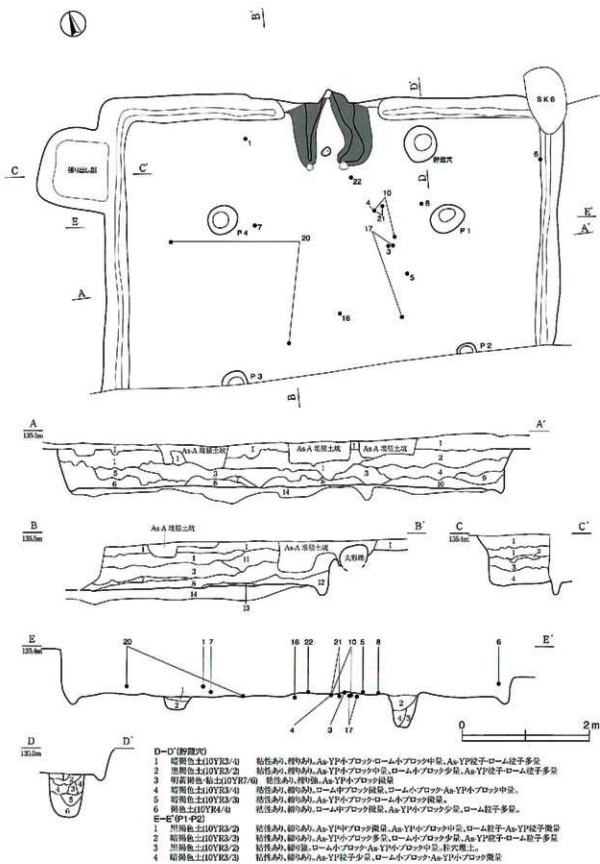
貯蔵穴はカマド右袖部脇に位置する。長径58cm、短径52cm、深さ66cmで、覆土下層にローム主体の褐色土、中層に明黄褐色粘土が堆積している。

北西コーナー付近には、東西114cm、南北130cmの張り出し部が設けられている。その覆土は黒褐色土と暗褐色土を基調としており、住居覆土に連続するため本住居跡に伴うものと判断した。底面は平坦で硬化面は認められない。壁は直立している。

覆土は13層に分層できる。黒褐色土と暗褐色土を基調としており、全体的にロームブロックとAs-YP軽石ブロックがあまり含まれていない。

住居掘方はAs-YP軽石層まで達しており、カマドから中央部にかけて島状に残されている。貼り床は黒褐色土で構築されており、硬く締まっている。

カマドは北壁中央部に付設されている。カマドの位置は、地山のAs-YP軽石層を一段高く掘り残して



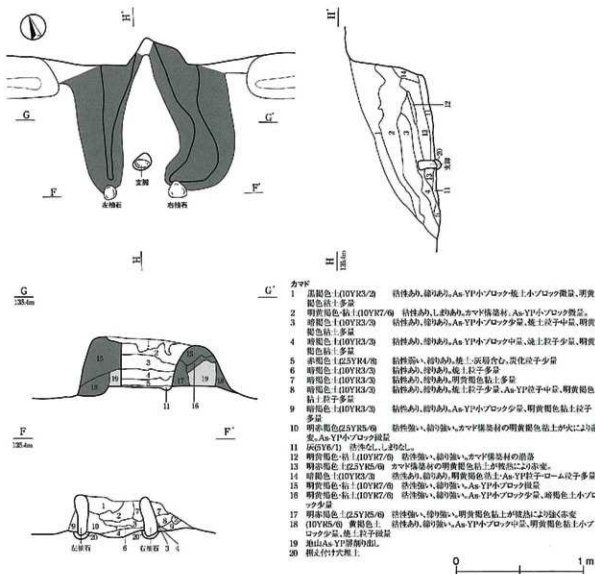
第18図 SI-5 (1)

A'-K, B-E'

- 1 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり、中SiO<sub>2</sub>の集積層と同一層。(集合層)  
 2 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり、As-YF小ブロック微量、ローム粒子-As-YF粒子少量(覆土)  
 3 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり、ローム小ブロック、As-YF小ブロック、ローム粒子-As-YF粒子少量(覆土)  
 4 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、ローム小ブロック微量、ローム小ブロック、As-YF小ブロック、ローム粒子-As-YF粒子少量(覆土)  
 5 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり、ローム小ブロック微量、ローム小ブロック少量、ローム小ブロック、As-YF小ブロック、ローム粒子-As-YF粒子少量(覆土)  
 6 暗褐色土(10YR4/4) 粘性あり、締りあり、ローム小ブロック微量、ローム粒子-As-YF粒子少量(覆土)  
 7 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり、ローム小ブロック少量、ローム小ブロック微量(覆土)  
 8 暗褐色土(10YR4/4) 粘性あり、締りあり、ローム小ブロック中量、As-YF小ブロック少量、ローム粒子多量(覆土)  
 9 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり、ローム小ブロック中量、As-YF小ブロック少量(覆土)  
 10 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり、As-YF小ブロック多量、ローム粒子多量(覆土)  
 11 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり、As-YF粒子少量(覆土)  
 12 暗褐色土(10YR4/4) 粘性あり、締りあり、ローム小ブロック、As-YF小ブロック中量、ローム粒子-As-YF粒子多量(覆土)  
 13 明赤褐色土(10YR7/6) 粘性あり、締り強い、粘土(覆土)  
 14 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締り強い、ローム小ブロック、As-YF小ブロック、明赤褐色土小ブロック多量(暗赤褐色土)

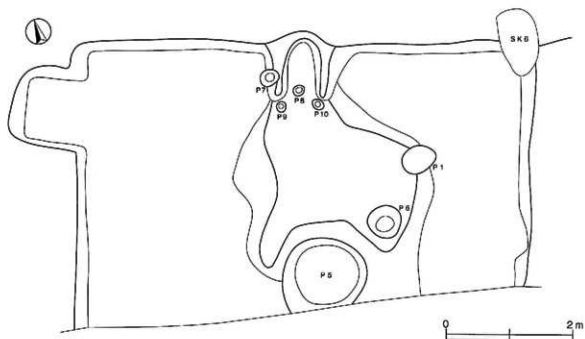
C-C' (掘り出し層)

- 1 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり、As-YF小ブロック微量、ローム粒子-As-YF粒子少量  
 2 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり、As-YF小ブロック、ローム小ブロック、As-YF粒子少量  
 3 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり、ローム粒子-As-YF粒子少量  
 4 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、ローム小ブロック、As-YF小ブロック少量、ローム粒子微量  
 1 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締りあり、粘土粒子-ローム粒子-As-YF粒子微量



第19図 SI-5(2)





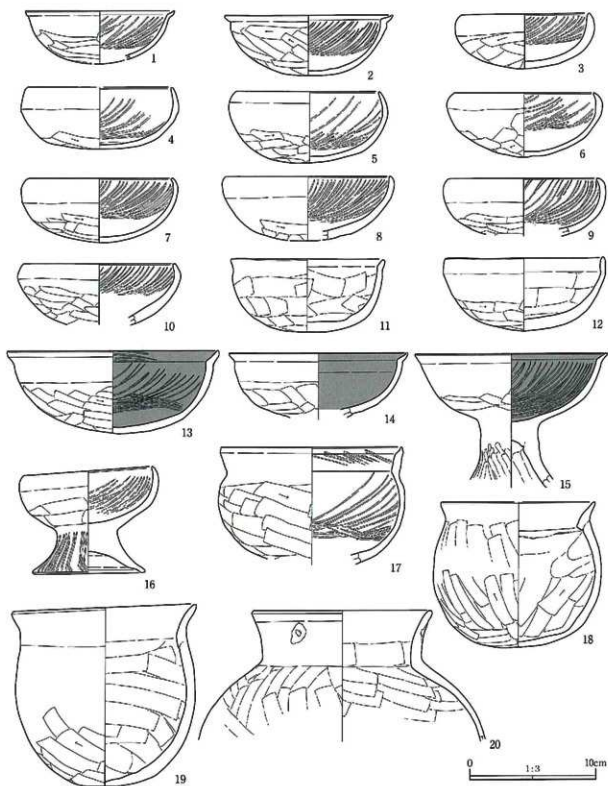
第20図 SI-5 (3)

おり、火床部はAs-YP軽石層をそのまま使用している。長径20cm、短径14cm、深さ10cmのP8を掘り、自然礫の支脚が据えられている。支脚は全面赤変している。両袖部は、As-YP軽石層を削り出して芯にしており、それに明黄褐色粘土を積み上げて構築している。袖部の先端には、長径18cm、短径14cm、深さ12cmのP9と長径20cm、短径14cm、深さ14cmのP10を掘り、自然礫の袖石が据えられている。袖石の内側は全面赤変している。

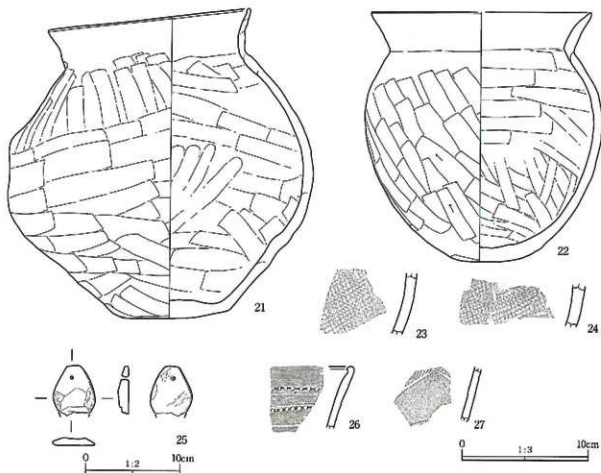
カマド土層断面の第11層は灰層で、そのすぐ上に焼土層が形成されている。

遺物所見 遺物は覆土中を中心に出土しているが、カマド周囲の床面にも遺物が集中している。覆土上・中層から出土した土器片は細片もしくは小片であり、覆土下層から床面にかけて大きな破片や完形品が出土している。完形の土師器坏が、東壘際(6)と中央部の覆土下層(3・4・5)からそれぞれ出土している。

時期 出土した土器から5世紀後半に位置づけられる。なお26・27の縄文土器は混入である。



第21図 SI-5出土遺物(1)



第 22 図 SI - 5 出土遺物 (2)

表 7 SI - 5 出土遺物観察表 (1)

遺物No	器種	法号	①地衣 (石材) 彩色調染粘土②残存	底・彫刻技法の特徴	備考
1	土師器 坏	口径 11.8 底径 - 器高 42.2	①酸化磁器明赤褐色 ②白色・赤褐色粒子、角閃石 ③点状彫刻	外底：口縁部横位ナデ。底～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。体部渦巻状ミガキ。	
2	土師器 坏	口径 13.2 底径 - 器高 4.8	①酸化磁器明赤褐色 ②白色・赤褐色粒子、角閃石 ③点状彫刻	外底：口縁部横位ナデ。底～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。体部上半渦巻状ミガキ。	
3	土師器 坏	口径 10.0 底径 - 器高 4.4	①酸化磁器明赤褐色 ②白色・赤褐色粒子、角閃石 ③点状彫刻	外底：口縁部横位ナデ。底～底部ヘラケズリ。 内面：口縁～体部上半渦巻状ミガキ。	
4	土師器 坏	口径 11.0 底径 - 器高 4.9	①酸化磁器に赤い赤褐色 ②白色粒子、角閃石 ③口縁～底部点状	外底：口縁部横位ナデ。底部ヘラケズリ。 内面：体部渦巻状ミガキ。	
5	土師器 坏	口径 11.3 底径 - 器高 5.7	①酸化磁器に赤い赤褐色 ②白色・黒色粒子 ③点状彫刻	外底：口縁部横位ナデ。体部下半～底部ヘラケズリ。 内面：体部渦巻状ミガキ。	
6	土師器 坏	口径 11.2 底径 - 器高 5.1	①酸化磁器点状 ②白色・黒色点 ③点状彫刻	外底：口縁部横位ナデ。底～底部ヘラケズリ。 内面：体部上半渦巻状ミガキ。	
7	土師器 坏	口径 11.4 底径 - 器高 5.1	①酸化磁器点状 ②白色・黒色粒子 ③点状彫刻	外底：口縁部横位ナデ。底部ヘラケズリ。 内面：体部上半渦巻状ミガキ。	
8	土師器 坏	口径 13.0 底径 - 器高 15.1	①酸化磁器点状 ②白色粒子、赤褐色 ③点状彫刻	外底：口縁部横位ナデ。底部ヘラケズリ。 内面：渦巻状ミガキ。	
9	土師器 坏	口径 11.8 底径 - 器高 4.1	①酸化磁器明赤褐色 ②白色点、赤褐色・黒色粒子 ③口縁～底部点状	外底：口縁部横位ナデ。体部下半以下ヘラケズリ。 内面：渦巻状ミガキ。	
10	土師器 坏	口径 12.0 底径 - 器高 14.9	①酸化磁器点状 ②白色粒子、石英、角閃石 ③口縁～体部点状	外底：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ。 内面：渦巻状ミガキ。	
11	土師器 坏	口径 11.9 底径 - 器高 5.9	①酸化磁器に赤い黄褐色 ②白色点、赤褐色点 ③点状彫刻	外底：体～底部ヘラ直彫。 内面：口縁部横位ナデ。底部ヘラケズリ。	
12	土師器 坏	口径 12.4 底径 - 器高 5.8	①酸化磁器に赤い黄褐色 ②白色粒子、角閃石 ③口縁～底部点状	外底：口縁部横位ナデ。体部下半～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ。	

表8 SI-5出土遺物観察表(2)

13	土師器 杯	口径 16.5 底径 - 器高 6.6	①酸化還元不明赤褐色 ②白色・赤色粒、角閃石 ③口径~底部2/3	外側：口径~体部下縁位ナデ。体部下半~底部ヘラケナリ。 内側：渦巻状ミガキ。黒色焼痕。	ヤマト區葛城内面上。
14	土師器 杯	口径 14.0 底径 - 器高 5.3	①酸化還元不明 ②白色・赤褐色粒子、角閃石 ③口径2/3	外側：口径~体部下縁位ナデ。体部下半ヘラケナリ。 内側：ナデ。黒色焼痕。	
15	土師器 高杯	口径 18.1 底径 - 器高 10.7	①酸化還元不明赤褐色 ②白色・黒色粒子 ③脚部下下欠損	外側：口径部積位ナデ。体部へラケナリ。脚部ミガキ。 内側：環状放射状ミガキ。黒色焼痕。脚部ナデ。	
16	土師器 高杯	口径 10.3 底径 8.6 器高 8.6	①酸化還元不明 ②白色、白色・褐色粒 ③口径部ナデ	外側：口径部積位ナデ。体部へラケナリ。脚部積位ナデミガキ。 内側：環状放射状ミガキ。渦巻。脚部積位ナデ。	
17	土師器 鉢	口径 14.3 底径 - 器高 8.9	①酸化還元不明 ②白色・黒色粒子 ③口径~体部3/4	外側：口径部積位ナデ。体部ヘラケナリ。 内側：口径部~体部表面状ミガキ。	
18	土師器 鉢	口径 12.2 底径 - 器高 11.5	①酸化還元不明赤褐色 ②白色粒、黒色粒子 ③口径~底部1/2	外側：口径部積位ナデ。体部上半ヘラケナリ。体部下半~底部ヘラケナリ。光斑。 内側：口径部積位ナデ。他~底部ヘラケナデ。	
19	土師器 小形鉢	口径 14.4 底径 - 器高 14.4	①酸化還元不明赤褐色 ②白色・黒色・赤褐色粒 ③ほぼ完形	外側：口径部積位ナデ。体部下半~底部ヘラケナリ。ふきこぼれ状の付着物。丸底。 内側：口径部積位ナデ。他~底部ヘラケナデ。	
20	土師器 盃	口径 13.0 底径 - 器高 11.0	①酸化還元不明 ②白色・赤褐色粒子、角閃石 ③口径~脚部3/4	外側：口径部積位ナデ。脚部ヘラケナリ。 内側：-	
21	土師器 茶	口径 16.0 底径 8.4 器高 24.6	①酸化還元不明赤褐色 ②白色・赤褐色粒 ③ほぼ完形	外側：口径部積位ナデ。体部へラケナリ。 内側：口径部積位ナデ。体部ヘラケナリ。	
22	土師器 盃	口径 17.3 底径 6.7 器高 19.9	①酸化還元不明赤褐色 ②白色・赤褐色粒、角閃石 ③口径~底部2/3	外側：口径部積位ナデ。体部へラケナリ。 内側：口径部積位ナデ。体部ヘラケナリ。	
23	伊式土師 器?	口径 - 底径 - 器高 -	①酸化還元不明 ②白色・褐色粒子、角閃石 ③足部ナデ	外側：縦線状タタキ目。 内側：ヘラケナリ。	
24	伊式土師 器?	口径 - 底径 - 器高 -	①酸化還元不明赤褐色 ②角閃石、褐色粒子 ③足部ナデ	外側：縦線状タタキ目 内側：ヘラケナリ。	
25	石製品 筒形	長さ 22.0 幅 22.4 厚さ 0.9 高さ 16.4	①滑石質 ②穿孔欠損	断面筒形。穿孔に穿孔1ヶ所。表面多方向割断面。	
26	縄文 陶片	口径 - 底径 - 器高 -	①酸化還元不明赤褐色 ②白色粒子、角閃石 ③口径部ナデ	外側：口径部にナデをもつ凹線層状。底縁で縦線。横文光斑。 内側：横線ミガキ。	
27	縄文 陶片	口径 - 底径 - 器高 -	①酸化還元不明赤褐色 ②白色粒子、角閃石 ③足部ナデ	外側：沈降による凹凸状。L R 稜線横文と光斑。 内側：ナデ。	

## SI-6 (第23・24図)

平面形態 不明

規模 不明

主軸方向 不明

遺構所見 北側は調査区域外に延びている。重複関係はSI-2より古い。本住居跡はIV層(第23図)直下、基本土層Ⅱb層上面で検出できた。SI-2は基本土層Ⅱa層上面で検出していることから層位的にも先後関係が把握できる。

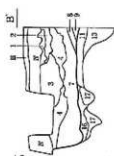
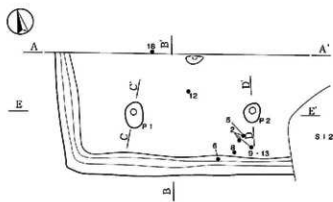
床は貼り床で、硬化面は認められない。壁高は最大35cmである。壁溝は各壁下で確認した。

ピットは2か所確認した。P1は長径41cm、短径28cm、深さ52cm、P2は長径31cm、短径25cm、深さ50cmである。P1とP2は位置から主柱穴と考えられる。

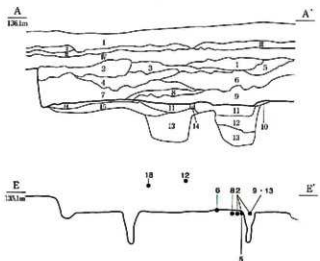
覆土は9層に分層できる。黒褐色土と暗褐色土を基調としており、全体的にロームブロックとAs-YP軽石ブロックが含まれ、覆土下層の第7層と第9層に多量に含まれている。

住居掘方はAs-YP軽石層まで達しており、壁際だけ掘られ中央部が鳥状に残されている。P3~P8は、さらに明黄褐色粘土層まで深く掘られている。貼り床は黒褐色土で構築されており、硬く締まっている。

遺物所見 遺物は覆土中を中心に出土しているが、南壁際の覆土下層から床面にも遺物が集中している。覆土中から出土した土器片は、細片もしくは小片がほとんどであるが、剣形石製模造品(18)や轆式土器(12)

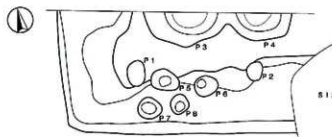


- C-C', D-D' (P1, P2)
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 暗褐色土、ローム大ブロック少量、ローム中ブロック少量、ローム小ブロック、As-YFブロック、ローム粒子、As-YF粒子少量、粘粒・細砂含有、
  - 2 10YR3/3 暗褐色土、ローム小ブロック、As-YFブロック少量、粘粒・細砂含有。



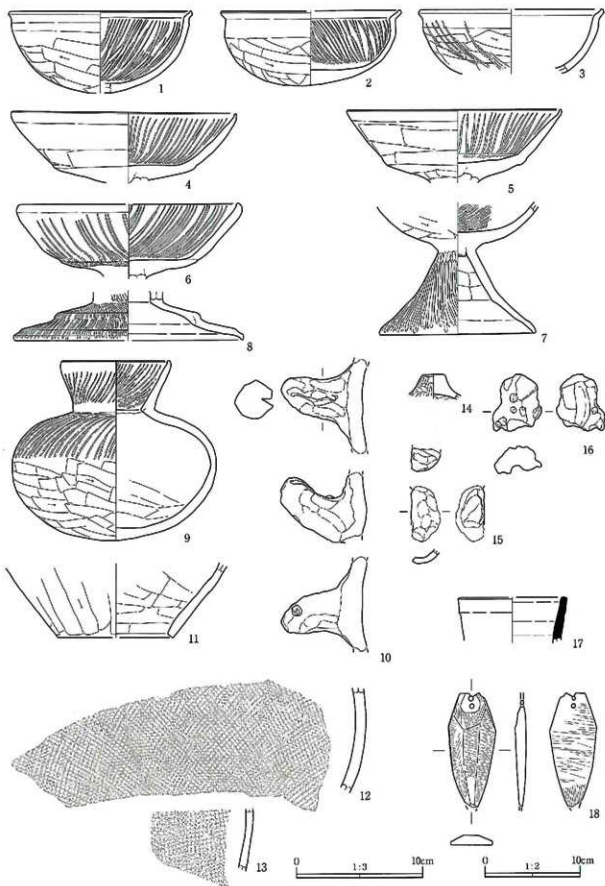
- A-A'-B-B'
- I 暗褐色土(10YR3/4) 粘粒あり、砂り強い、耕作土、As-A多量
  - II 灰褐色粘板層
  - III 暗褐色土(10YR3/1) 粘粒あり、砂り強い、地上残土微量(包含材)
  - IV 黒褐色土(10YR3/2) 粘粒あり、砂り強い、MSISの第1層と同じ層(包含材)
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 粘粒あり、砂り強い、As-YF少ブロック中量、ローム中ブロック少量、ローム小ブロック少量、ローム粒子、As-YF粒子多量(覆土)
  - 2 暗褐色土(10YR3/3) 粘粒あり、砂り強い、ローム小ブロック、As-YF少ブロック少量、ローム粒子、As-YF粒子多量(覆土)
  - 3 暗褐色土(10YR3/4) 粘粒あり、砂り強い、As-YF少ブロック少量、ローム小ブロック中量、ローム粒子、As-YF粒子多量(覆土)
  - 4 黒褐色土(10YR3/2) 粘粒あり、砂り強い、ローム小ブロック多量、As-YF少ブロック少量、ローム粒子、As-YF粒子多量(覆土)
  - 5 暗褐色土(10YR3/3) 粘粒あり、砂り強い、As-YF少ブロック少量、ローム粒子、As-YF粒子多量(覆土)

- 6 黒褐色土(10YR3/3) 粘粒あり、砂り強い、ローム小ブロック、As-YF少ブロック多量、ローム中ブロック中量、明黄褐色粘土小ブロック微量、ローム粒子、As-YF粒子多量(覆土)
- 7 暗褐色土(10YR3/4) 粘粒あり、砂り強い、ローム小ブロック、As-YF粒子多量、ローム大ブロック、ローム中ブロック微量(覆土)
- 8 暗褐色土(10YR3/2) 粘粒あり、砂り強い、ローム小ブロック、As-YF少ブロック微量、ローム粒子、As-YF粒子少量(覆土)
- 9 暗褐色土(10YR3/4) 粘粒あり、砂り強い、ローム小ブロック多量、As-YF少ブロック中量、ローム粒子、As-YF粒子多量(覆土)
- 10 明黄褐色土(10YR7/0) 粘粒あり、砂り強い、As-YF少ブロック微量(是非確認土)
- 11 明黄褐色土(2.5Y/4) 粘粒あり、砂り強い、ローム小ブロック、As-YF少ブロック少量、明黄褐色粘土・暗褐色土の混合土。(是非確認土)
- 12 オリーブ色(2.5Y/4) 粘粒あり、砂り強い、ローム小ブロック、As-YF少ブロック、明黄褐色粘土・暗褐色土の混合土。(灰土・粘板土)
- 13 暗褐色土(10YR3/2) 粘粒あり、砂り強い、As-YF少ブロック、明黄褐色粘土小ブロック少量(灰土・粘板土)
- 14 暗褐色土(10YR3/2) 粘粒あり、砂り強い、ローム小ブロック、As-YF少ブロック多量(暗赤粘板土)
- 15 黄色土(2.5Y/4) 粘粒あり、砂り強い、As-YF少ブロック多量、ローム小ブロック、明黄褐色粘土小ブロック少量(暗赤粘板土)
- 16 黒褐色土(10YR3/2) 粘粒あり、砂り強い、ローム小ブロック、As-YF少ブロック中量、ローム粒子、As-YF粒子多量、(暗赤粘板土)
- 17 暗褐色土(10YR3/3) 粘粒あり、砂り強い、暗褐色土、As-YF少ブロックの混合土。(暗赤粘板土)



第23図 SI-6

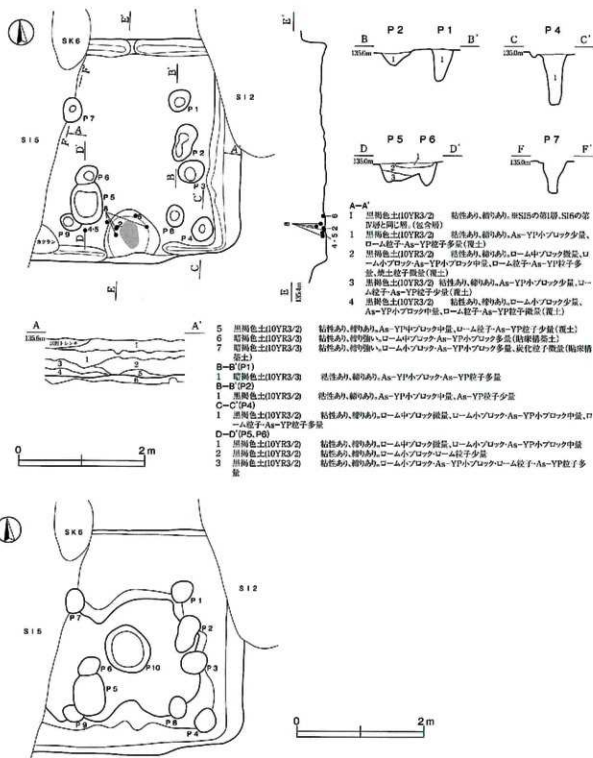
13) も覆土中から出土している。床面からは土師器煮(9)の破片が潰れた状態で出土している。  
 時期 出土した土器から5世紀後半に位置づけられる。



第24图 SI-6出土遺物

南壁際の中央部が皿状にくぼんでおり、一部強く焼けて赤変している。カマド構築材等は確認できないが、カマドの可能性が考えられる。

住居掘方はAs - YP 軽石層まで達しており、壁際だけ掘られ中央部が高状に残されている。P 10 はさらに明黄褐色粘土層まで深く掘られている。貼り床は、ロームブロックと As - YP 軽石ブロックを多量に含む暗褐色土で構築されている。



第25図 SI - 7

表9 SI-6出土遺物観察表

遺物No	器種	法量	①地味(石材)②色調③素材④残存	産・成形技法の特徴	備考
1	土師器 杯	口径 14.3 底径 - 器高 6.5	①酸化還元明赤褐色 ②白色、赤褐色、角閃石 ③口径一底径1/4 ④断面	外周：口縁部積状ナデ。体一底部ヘラズリ。 内周：口縁部積状ナデ。体一底部積巻状ミガキ。	
2	土師器 環	口径 (14.0) 底径 - 器高 6.0	①酸化還元明赤褐色 ②白色、赤褐色、赤褐色粒 ③口径一底径2/3	外周：口縁部積状ナデ。体一底部ヘラズリ。 内周：口縁部積状ナデ。体一底部積巻状ミガキ。	
3	土師器 杯	口径 (14.0) 底径 - 器高 6.1	①酸化還元明赤褐色 ②白色粒子、赤褐色粒 ③口径一底径1/2	外周：口縁部積状ナデ。体一底部ヘラズリ後ミガキ。 内周：別途。	
4	土師器 高杯	口径 17.6 底径 - 器高 13.7	①酸化還元明赤褐色 ②赤石英、赤褐色粒子 ③断面	外周：積状ナデ。底部下層積状ヘラナデ。口縁部内湾。 内周：積巻状ミガキ。	
5	土師器 高杯	口径 16.8 底径 - 器高 15.5	①酸化還元明赤褐色 ②白色、赤褐色粒 ③断面	外周：積状ヘラナデ。 内周：積巻状ミガキ。口縁部肥厚。	
6	土師器 高杯	口径 (17.2) 底径 - 器高 13.9	①酸化還元明赤褐色 ②白色粒子、角閃石 ③断面1/3	外周：口縁部積状ナデ。放射状ミガキ。 内周：放射状ミガキ。	
7	土師器 高杯	口径 - 底径 12.1 器高 10.0	①酸化還元明赤褐色 ②白色粒子 ③断面一部	外周：体部ヘラズリ。脚部ミガキ。 内周：体部ミガキ。脚部ヘラズリ。脚部内湾。	
8	土師器 高杯	口径 - 底径 (17.8) 器高 13.9	①酸化還元明赤褐色 ②白色、赤褐色粒子、角閃石 ③断面1/2	外周：放射状ミガキ。 内周：ナデ。脚部内湾。	
9	土師器 壺	口径 8.4 底径 8.0 器高 14.3	①酸化還元明赤褐色 ②赤石英、角閃石 ③口径一底径1/2	外周：口縁部一筋部放射状ミガキ。体一底部ヘラズリ。 内周：口縁部放射状ミガキ。筋部ヘラズリ。口縁部肥厚。	
10	土師器 甕	口径 - 底径 - 器高 -	①酸化還元明赤褐色 ②白色粒子、角閃石 ③断面	外周：中央部肥子。上面に切り込み後、エビによる整形。下面に割突。	
11	土師器 甕	口径 - 底径 13.0 器高 15.0	①酸化還元明赤褐色 ②白色、赤褐色粒 ③口径一底径1/2	外周：放射状ヘラズリ。 内周：積状ヘラナデ。下部部肥厚。	3期前出土。
12	灰式土器 甕?	口径 - 底径 - 器高 -	①酸化還元明赤褐色 ②赤褐色、赤褐色粒、角閃石 ③断面	外周：筒状ミガキナデ目。 内周：ヘラナデ。	
13	灰式土器 甕?	口径 - 底径 - 器高 -	①酸化還元明赤褐色 ②赤褐色、赤褐色粒 ③断面	外周：筒状ミガキナデ目。 内周：ナデ。	
14	土質品 蓋?	口径 1.7 口径 - 器高 2.0	①酸化還元明赤褐色 ②白色、赤褐色粒子 ③断面	外周：ミガキ。筋部エビによる整形。 内周：ナデ、ミガキ。	
15	土質品 土師器	口径 - 底径 - 器高 -	①酸化還元明赤褐色 ②赤石英、赤褐色粒子、角閃石 ③断面	外周：ヘラズリ工具による切り込み。エビナデ。 内周：エビによる整形。	
16	土質品 板状物	口径 - 底径 - 器高 -	①酸化還元明赤褐色 ②赤石英、赤褐色粒子、角閃石 ③断面	外周：板状の穿孔が認められる。	
17	土師器 甕	口径 17.6 底径 13.0 器高 13.0	①酸化還元明赤褐色 ②赤石英、赤褐色粒子 ③口径1/4	外周：口縁部肥厚。口縁部肥厚。 内周：口縁部肥厚。	
18	石質品 射石	長さ 10.0 幅 3.0 厚さ 0.5 重量 10.7	①滑石 ②一部欠損	表面：表面部磨光。表面穿孔2孔。 裏面：後方側一縦方向磨光。	

## SI-7 (第25・26図)

平面形態 不明

規模 不明

主軸方向 不明

遺構所見 重複関係はSI-2・3・5、SK-6より古い。床は貼り床で、P1・P2・P5～P8の内側に硬化面が広がる。壁高は最大36cmである。壁溝は各壁下で確認した。

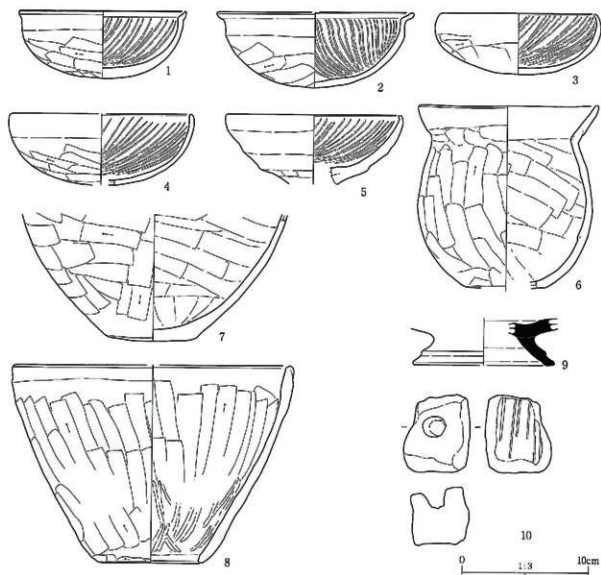
ピットは9か所確認した。P1は長径37cm、短径33cm、深さ50cm、P2は長径61cm、短径29cm、深さ25cm、P3は長径42cm、短径36cm、P4は長径42cm、短径36cm、深さ81cm、P5は長径63cm、短径50cm、深さ30cm、P6は長径40cm、短径30cm、深さ51cm、P7は長径39cm、短径30cm、深さ35cm、P8は長径35cm、短径27cm、P9は長径35cm、短径26cmである。

覆土は5層に分層できる。黒褐色土を基調としており、覆土中層から下層に堆積している第2・第4・第5層にロームブロックとAs-YP軽石ブロックが多く含まれているのが特徴である。



遺物所見 遺物は覆土中を中心に出土しており、土器片の多くは細片もしくは小片である。南壁際中央部の覆土下層から床面にかけて、土師器の大きな破片が集中している。

時期 出土した土器から5世紀後半に位置づけられる。なお9の須恵器高盤は混入と考えられる。



第26図 SI-7出土遺物

表10 SI-7出土遺物観察表(1)

遺物名	形状	法量	①地成(石片) ②色・斑・胎土(瓦存)	成・成形技法の特征	備考
1 土師器 杯	口径 底径 器高	13.0 - 5.3	①酸化緑土 ②石英、白色、赤褐色粒 ③完形	外面：口縁部傾位ナシ。体一底部ヘラケズリ。 内面：口縁部傾位ナシ。体一部巻状とガキ。	
2 土師器 杯	口径 底径 器高	(15.5) - 6.0	①酸化緑土赤褐色 ②石英、赤褐色粒 ③口径一底部2/3	外面：口縁部傾位ナシ。体一底部ヘラケズリ。 内面：口縁部傾位ナシ。体一部巻状とガキ。	
3 土師器 杯	口径 底径 器高	12.0 - 4.9	①酸化緑土赤褐色 ②白色、赤褐色粒 ③口径一底部3/4	外面：口縁部傾位ナシ。体一底部ヘラケズリ。 内面：巻状とガキ。	
4 土師器 杯	口径 底径 器高	(14.1) - 5.8	①酸化緑土赤褐色 ②白色、赤褐色粒、石英 ③口径一底部1/3	外面：口縁部傾位ナシ。体一底部ヘラケズリ。 内面：巻状とガキ。	
5 土師器 残片	口径 底径 器高	13.7 - 15.0	①酸化緑土 ②白色、赤褐色粒子 ③底部	外面：口縁部傾位ナシ。口縁部下唇ヘラ調整。 内面：巻状とガキ。	

表 11 SI-7 出土遺物観察表(2)

遺物No.	器種	数量	①形状 (石材) ②色調 ③胎土の存在	④・製材法の特徴	備考
6	土師器 罌	口径 13.9 底径 8.8 器高 14.6	①酸化還元層 ②白色・赤褐色粒子 ③紅緑～灰緑色	外観：1段部傾斜ナダ。底部ヘラケズリ。底面平直ナ。 内観：1段部傾斜ナダ。底部ヘラケズリ。	
7	土師器 罌	口径 - 底径 6.9 器高 10.1	①酸化還元層 ②赤褐色粒子、肉内石 ③紅緑～灰緑色	外観：頸部ヘラケズリ。 内観：頸部ヘラケズリ。	
8	土師器 罌	口径 21.6 底径 8.0 器高 15.6	①酸化還元層 ②白色・赤褐色粒 ③口径～底部1/4	外観：1段部傾斜ナダ。底部ヘラケズリ。 内観：底部上半ヘラケズリ。底部下半ミガキ。	
9	灰土器 罌	口径 - 底径 10.9 器高 13.7	①還元層 ②白色粒子 ③口径～台座1/4	外観：口径部傾斜。内面は強いナダにより傾斜を有する。 内観：口径部傾斜。	
10	石製品 砥石	長さ 6.1 幅 5.2 厚さ 4.6 重量 98.5	①硬質層 ②欠損	上面平直。未研磨。表面に層状層。	

## SI-8 (第 27・28・29・30 図)

平面形態 不明

規模 東西長 3.95 m である。

主軸方向 N-129°-E である。

遺構所見 重複関係は SI-10 より新しい。

床はカマド部分を除いて貼り床である。硬化面は床面全体に広がる。壁高は最大 120cm である。壁溝は各壁下で確認した。

ピットは 6 か所確認した。南東壁際にカマドを挟んで 2 か所、南西壁際に 4 か所位置している。P 4 A と P 4 B は P 4 A が新しく、柱を据え直したものと考えられる。P 4 B の覆土は締りが強い。P 1 は長径 36cm、短径 26cm、深さ 22cm、P 2 は長径 39cm、短径 35cm、深さ 52cm、P 3 は長径 30cm、短径 26cm、深さ 36cm、P 4 A は長径 37cm、短径 26cm、深さ 62cm、P 4 B は 31cm だけ確認でき、深さ 45cm である。P 5 は長径 36cm、短径 21cm、深さ 47cm である。

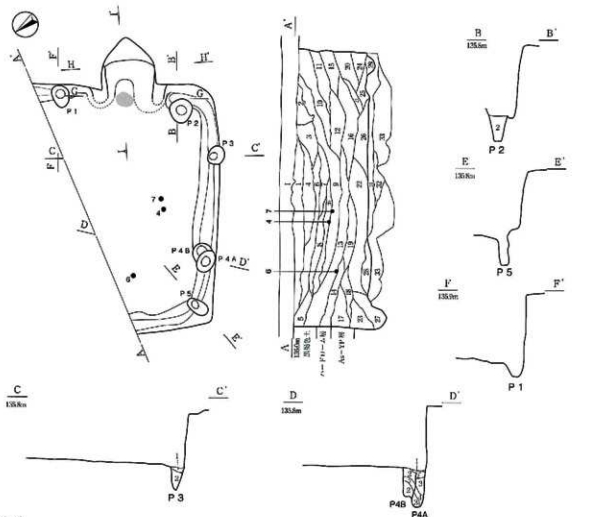
覆土は 30 層に分層できる。黒褐色土と暗褐色土を基調としており、レンズ状の堆積をしている。全体的にロームブロックと As-YP 軽石ブロックが含まれており、覆土上層の第 2 層と覆土中層の第 30 層は、ローム主体の土である。

カマドは東壁のやや南寄りに付設されている。煙道部は、確認面の黒褐色土から As-YP 軽石層まで掘り込まれており、地山に粘土を貼り付けて構築している。粘土は強く焼けており、赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、As-YP 軽石層をそのまま使用しており、一部強く焼けて赤変している。両袖部は、As-YP 軽石層を削り出して芯にしており、そこに明黄褐色粘土を積み上げて構築している。袖部の内側は、強く焼けて赤変している。カマド土層断面の第 4 層は灰層である。その上に堆積している第 1～第 3・第 9・第 10 層は、天井部等のカマド構築材が崩落したものと考えられる。第 1 層の上に堆積している第 11～第 13 層は、ロームブロックと As-YP 軽石ブロックが多量に含まれており、人為堆積土と考えられる。

住居掘方は、カマド部分を除いた全体を As-YP 軽石層を土坑状に掘り込み、明黄褐色粘土層まで達している。土坑は不整形で大きさと深さは不統一で、切り合いが認められる。As-YP 軽石ブロックおよび明黄褐色粘土ブロックを多量に含む、黒褐色土と明黄褐色粘土で構築されている。

遺物所見 遺物はすべて覆土中から出土している。土器片の多くは細片もしくは小片であり、完形品は無い。覆土中層および覆土下層から須恵器の蓋、貼り床構築土中、掘方から土師器鉢(2)・甕(3)が出土している。

時期 遺物の出土状況から考えると、本住居跡は 7 世紀後半～7 世紀末におさまるものと考えられる。



- A-A'
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, 中SIS-7の第1層, SIS6の前IV層と同質。(複合部)
  - 2 黒色土(10YR4/0) 粘性あり, 砂りあり, U-M小ブロックAs-YF小ブロック少量(覆土)
  - 3 黄褐色土(10Y5/6) 粘性あり, 砂りあり, U-M (覆土)
  - 4 暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり, 砂りあり, As-YF小ブロック少量, ロム粒子-As-YF粒子中量(覆土)
  - 5 褐色土(10YR4/4) 粘性あり, 砂りあり, U-M小ブロックAs-YF小ブロック少量, ロム粒子-As-YF粒子中量(覆土)
  - 6 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, U-M中ブロック少量, As-YF小ブロック少量, ロム小ブロック少量(覆土)
  - 7 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, U-M小ブロックAs-YF小ブロック中量, 黄土粒子少量(覆土)
  - 8 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, U-M中ブロック少量, ロム小ブロック少量(覆土)
  - 9 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, U-M小ブロックAs-YF小ブロック少量, ロム粒子-As-YF粒子少量(覆土)
  - 10 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, As-YF小ブロック少量, ロム粒子-As-YF粒子少量(覆土)
  - 11 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, U-M小ブロックAs-YF小ブロック中量, ロム粒子-As-YF粒子少量(覆土)
  - 12 暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり, 砂りあり, U-M小ブロック少量, 明黄褐色粘土小ブロック少量(覆土)
  - 13 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, U-M小ブロックAs-YF小ブロック少量, 明黄褐色粘土小ブロック少量(覆土)
  - 14 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, U-M小ブロックAs-YF小ブロック中量, ロム粒子-As-YF粒子少量(覆土)
  - 15 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, U-M小ブロックAs-YF小ブロック少量, 明黄褐色粘土小ブロック少量(覆土)
  - 16 暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり, 砂りあり, U-M小ブロック少量, 明黄褐色粘土小ブロック少量(覆土)
  - 17 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, U-M小ブロックAs-YF小ブロック少量, 明黄褐色粘土小ブロック少量(覆土)
  - 18 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり, 砂りあり, As-YF中ブロック少量, ロム小ブロック少量, 明黄褐色粘土小ブロック少量(覆土)
  - 19 黒褐色土(10YR3/2) 明黄褐色粘土小ブロック少量, As-YF小ブロック中量, ロム粒子-As-YF粒子少量(覆土)
  - 20 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, U-M小ブロックAs-YF小ブロック少量, ロム粒子少量(覆土)
  - 21 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, U-M粒子-As-YF粒子少量(覆土)
  - 22 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, 明黄褐色粘土小ブロック少量, ロム小ブロック中量, As-YF小ブロック少量, ロム粒子-As-YF粒子少量(覆土)
  - 23 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, As-YF小ブロック少量, ロム粒子-As-YF粒子中量(覆土)
  - 24 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, U-M粒子-As-YF粒子少量(覆土)
  - 25 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, 明黄褐色粘土小ブロックAs-YF小ブロック少量(覆土)
  - 26 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, 明黄褐色粘土小ブロックAs-YF小ブロック少量(覆土)
  - 27 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり, 砂りあり, U-M小ブロックAs-YF小ブロック少量, ロム粒子-As-YF粒子少量(覆土)
  - 28 黒褐色土(10YR4/4) 粘性あり, 砂りあり, U-M小ブロックAs-YF小ブロック少量(覆土)
  - 29 明黄褐色粘土(10YR7/6) 粘性あり, 砂りあり, 粘土, 暗褐色土小ブロック少量(覆土)
  - 30 黄褐色土(10Y5/6) 粘性あり, 砂りあり, U-M小ブロックAs-YF小ブロック少量, ロム粒子-As-YF粒子少量(覆土)
  - 31 (二) 黄褐色土(10Y5/6) 粘性あり, 砂りあり, As-YF小ブロック少量, 明黄褐色粘土小ブロック少量, ロム小ブロック少量(覆土)
  - 32 褐色土(10YR4/4) 粘性あり, 砂りあり, As-YF小ブロック少量, 明黄褐色粘土小ブロック少量, ロム小ブロック少量(覆土)
  - 33 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり, 砂りあり, As-YF小ブロック少量, 明黄褐色粘土小ブロック少量, ロム小ブロック少量(覆土)

第27図 SI-8 (1)

B-B', C-C' (P2, P3)

- 1 暗褐色土(10YR3/3)
- 2 褐色土(10YR4/4)

粘性あり、締りあり、As-YF小ブロック中量、ローム小ブロック少量  
粘性あり、締りあり、ローム小ブロックAs-YF小ブロック多量

D-D' (P4A)

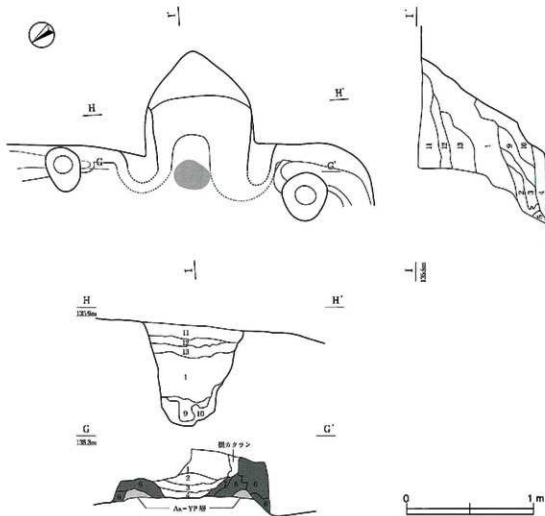
- 1 暗褐色土(10YR3/3)
- 2 暗褐色土(10YR4/3)
- 3 暗褐色土(10YR3/3)
- 4 褐色土(10YR4/4)

粘性あり、締りあり、As-YF小ブロック少量  
粘性あり、締りあり、ローム小ブロック多量、As-YF小ブロック少量  
粘性あり、締りあり、ローム小ブロックAs-YF小ブロック中量  
粘性あり、締りあり、ローム小ブロックAs-YF小ブロック多量

D-D' (P4B)

- 1 暗褐色土(10YR3/3)
- 2 暗褐色土(10YR3/4)
- 3 褐色土(10YR4/4)

粘性あり、締り強し、As-YF小ブロック少量  
粘性あり、締り強し、ローム小ブロック多量、As-YF小ブロック少量  
粘性あり、締り強し、ローム小ブロックAs-YF小ブロック多量

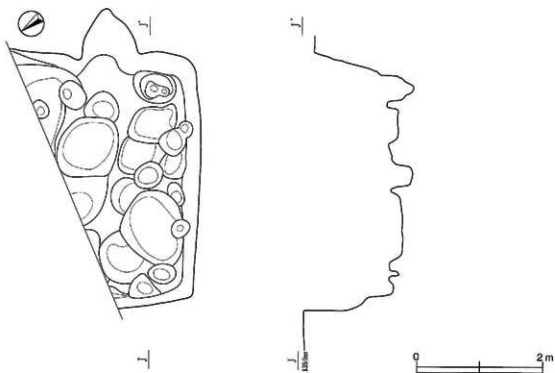


カマド

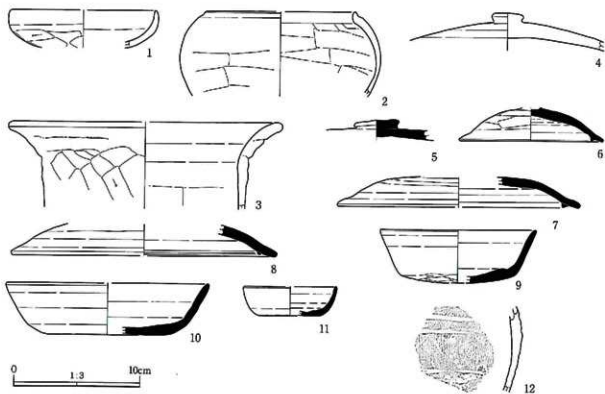
- 1 黄褐色土(10YR5/6)
- 2 黄褐色土(10YR5/6)
- 3 黄褐色土(10YR5/6)
- 4 灰(5Y6/1)
- 5 黄褐色土(10YR5/6)
- 6 黄褐色土(10YR5/6)
- 7 赤褐色土(5YR4/6)
- 8 褐色土(10YR4/4)
- 9 赤褐色土(5YR4/6)
- 10 暗褐色土小ブロックAs-YF
- 11 暗褐色土(10YR3/3)
- 12 暗褐色土(10YR3/4)
- 13 黄褐色土(10YR5/2)

粘性強し、締り強し、暗褐色土小ブロック少量、カマド構築材。  
粘性強し、締り強し、暗褐色土小ブロック中量、灰土小ブロック少量、カマド構築材。  
粘性強し、締り強し、As-YF小ブロック少量、カマド構築材。  
粘性なし、締り強し、灰土粒子中量、灰化粒子少量、灰層。  
粘性強し、締り強し、As-YF粒子少量、カマド構築材。  
粘性強し、締り強し、As-YF小ブロック少量、カマド構築材。  
粘性強し、締り強し、灰層。  
粘性強し、締り強し、暗褐色土小ブロックAs-YF小ブロック少量、積層。  
粘性強し、締り強し、As-YF小ブロック少量、カマド構築材。  
暗褐色土小ブロックAs-YF小ブロック明黄褐色土の割合上、粘性強し、締り強し、カマド構築材。  
粘性あり、締り強し、As-YF小ブロック中量、ローム粒子As-YF粒子塗土粒子少量  
暗褐色土(10YR3/4) ローム小ブロックAs-YF小ブロック中量、ローム粒子As-YF粒子少量、灰土粒子少量  
13 黄褐色土(10YR5/2) 粘性あり、締りあり、ローム小ブロックAs-YF小ブロックローム粒子As-YF粒子少量

第28図 SI-8(2)



第29图 SI-8(3)



第30图 SI-8出土遺物

表 12 SI - 8 出土遺物観察表

遺物No.	器種	数量	①焼成(石材) ②染色③胎土④存在	底、彫刻技法の特徴	備考
1	土師器 杯	口径 11.4 底径 - 器高 3.0	①焼成(胎土) ②赤褐色 ③石質、黒色焼 ④口縁-底部1/3	外側：口縁部積位ナデ。底部ヘラケズリ。 内側：横長ナデ。	
2	土師器 鉢	口径 11.7 底径 - 器高 4.7	①焼成(胎土) ②赤褐色 ③竹片、白色・赤褐色 ④口縁-底部1/3	外側：口縁部積位ナデ。底部ヘラケズリ。 内側：口縁部積位ナデ。底部ヘラケズリ。	船場内出土。
3	土師器 罍	口径 20.8 底径 - 器高 16.9	①焼成(胎土) ②赤褐色 ③赤褐色・赤褐色、陶質 ④口縁-底部1/6	外側：口縁部積位ナデ。底部ヘラケズリ。 内側：口縁部積位ナデ。底部積位ヘラケズリ。	船場内出土。
4	土師器 壺	口径 2.6 底径 - 器高 3.0	①焼成(胎土) ②赤褐色 ③石質、赤褐色 ④胎土-天井部片	外側：天井部積位ヘラケズリ。 内側：口縁部積位。	
5	土師器 壺	口径 3.6 底径 - 器高 1.6	①焼成(胎土) ②赤褐色 ③赤褐色・赤褐色 ④胎土-天井部片	外側：口縁部積位。胎土扁平。 内側：口縁部積位。	
6	土師器 壺	口径 11.3 底径 - 器高 12.7	①焼成(胎土) ②赤褐色 ③赤褐色・白色胎土 ④天井-口縁部1/4	外側：天井部平持ちヘラケズリ。 内側：口縁部積位。	
7	土師器 壺	口径 18.8 底径 - 器高 12.4	①焼成(胎土) ②赤褐色 ③赤褐色胎土 ④天井-口縁部1/4	外側：天井部積位ヘラケズリ。 内側：口縁部積位。	
8	土師器 壺	口径 20.0 底径 - 器高 12.3	①焼成(胎土) ②赤褐色 ③赤褐色胎土 ④天井-口縁部1/2	外側：天井部積位ヘラケズリ。 内側：口縁部積位。	
9	土師器 杯	口径 12.2 底径 - 器高 4.2	①焼成(胎土) ②赤褐色 ③赤褐色胎土 ④口縁-底部1/4	外側：口縁部積位。底部積位ヘラケズリ。 内側：口縁部積位。	
10	土師器 杯	口径 15.8 底径 10.2 器高 4.1	①焼成(胎土) ②赤褐色 ③赤褐色胎土 ④口縁-底部1/4	外側：口縁部積位。底部積位ヘラケズリ。 内側：口縁部積位。	
11	土師器 小杯	口径 6.6 底径 5.6 器高 2.3	①焼成(胎土) ②赤褐色 ③赤褐色胎土 ④口縁-底部1/4	外側：口縁部積位。底部積位ヘラケズリ。 内側：口縁部積位。	
12	土師器 壺	口径 - 底径 - 器高 -	①焼成(胎土) ②赤褐色 ③竹片、白色胎土 ④胎土	外側：ハケメの後、沈着による胎土。 内側：ナデ。	船場内出土。

## SI - 9 (第 31-32 区)

平面形態 不明

規模 不明

主軸方向 不明

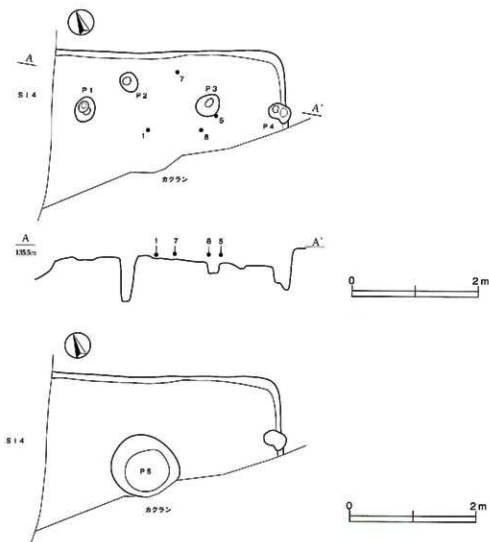
遺構所見 重複関係はSB - 1・SI - 4より古い。床は貼り床で、硬化面は認められない。SB - 1の下層に位置し、壁高は最大 30cm 残っている。

ピットは 4 か所確認した。P 1 は長径 40cm、短径 30cm、P 2 は長径 32cm、短径 26cm、深さ 70cm、P 3 は長径 40cm、短径 34cm、深さ 19cm、P 4 は長径 35 cm、短径 23cm、深さ 40cm である。

覆土は 3 層である。暗褐色土と褐色土を基調としており、ロームブロックと As - YP 軽石ブロックを多量に含むのが特徴である。

住居掘方は As - YP 軽石層まで達しており、平坦に掘り下げられている。P 5 は、さらに明黄褐色粘土層まで深く掘られている。貼り床は、As - YP 軽石ブロックとロームブロックを多量に含む褐色土で構築されている。

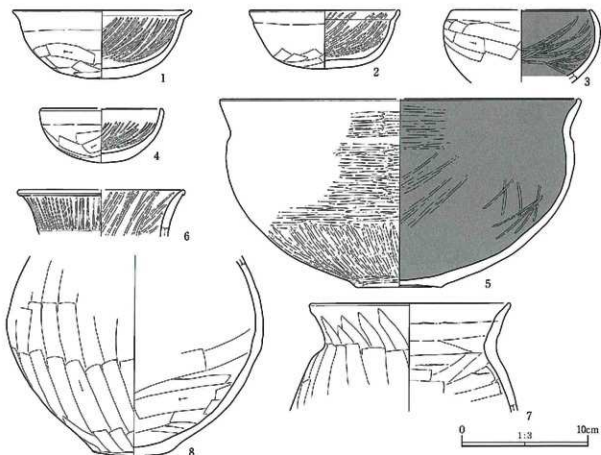
遺物所見 遺物はすべて覆土中から出土している。土器片の多くは細片もしくは小片であり、完形品は無い。時期 出土した土器から 5 世紀後半に位置づけられる。



第31図 SI-9

表13 SI-9出土遺物観察表

遺物No	器種	図録	①地産(石材) ②白色・赤褐色の土質残存	③成・整形技法の行致	備考
1	土師器 杯	口径 14.0 底径 - 器高 5.4	①陶化磁器明赤褐色 ②白色・赤褐色粒、角閃石 ③口縁一部	外面：口縁部傾位ナシ。器部下半一底部ヘラケズリ。 内面：口縁部傾位ナシ。底部筒筒状ミガキ。	
2	土師器 杯	口径 11.7 底径 - 器高 4.7	①陶化磁器明赤褐色 ②白色・赤褐色粒 ③口縁一底部	外面：口縁部傾位ナシ。底部ヘラケズリ。 内面：筒筒状ミガキ。	
3	土師器 杯	口径 (10.8) 底径 - 器高 5.8	①陶化磁器明赤褐色 ②白色・赤褐色粒、角閃石 ③口縁一底部 1/4	外面：口縁部傾位ナシ。底部ヘラケズリ。 内面：筒筒状ミガキ。黒色焼跡。	
4	土師器 杯	口径 (9.4) 底径 - 器高 4.3	①陶化磁器明赤褐色 ②白色・赤褐色粒、石英 ③口縁一底部	外面：口縁部傾位ナシ。器部下半一底部ヘラケズリ。 内面：筒筒状ミガキ。	
5	土師器 鉢	口径 (28.3) 底径 6.7 器高 15.0	①陶化磁器明赤褐色 ②白色・赤褐色粒子 ③口縁一底部	外面：丁寧ミガキ。 内面：ミガキ。黒色焼跡。口縁部傾位ナシ。	
6	土師器 壺	口径 (12.3) 底径 - 器高 [3.7]	①陶化磁器明赤褐色 ②白色・赤褐色粒、角閃石 ③口縁一部	外面：放射状ミガキ。口縁下縁傾位ナシ。口縁部傾位ナシ。 内面：放射状ミガキ。	
7	土師器 壺	口径 13.6 底径 - 器高 [8.5]	①陶化磁器明赤褐色 ②赤褐色・白色粒子、角閃石 ③口縁一底部	外面：ヘラケズリ。 内面：口縁部傾位ナシ。口縁下部一底部ヘラケズリ。	
8	土師器 壺	口径 - 底径 6.3 器高 [16.0]	①陶化磁器明赤褐色 ②白色・赤褐色粒子、角閃石 ③口縁一底部	外面：ヘラケズリ。 内面：ヘラケズリ。	



第32図 SI-9 出土遺物

SI-10 (第33・34図)

平面形態 不明

規模 不明

主軸方向 不明

遺構所見 北側が調査区域外に延びている。重複関係はSI-4より新しく、SB-1、SI-2より古い。

床は地山のAs-YP軽石層をそのまま使用しており、硬化面は認められない。SB-1の下層に位置し、壁高は最大49cm残っている。

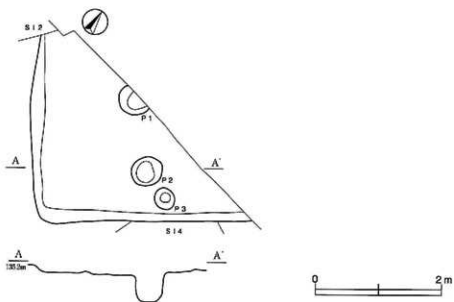
ピットは3か所確認した。P1は長径52cmだけ確認でき、深さ67cm、P2は長径50cm、短径45cm、深さ47cm、P3は長径33cm、短径30cmである。

覆土は11層に分層できる。黒褐色土と暗褐色土を基調としており、全体的にロームブロックとAs-YP軽石ブロックを多量に含むのが特徴である。

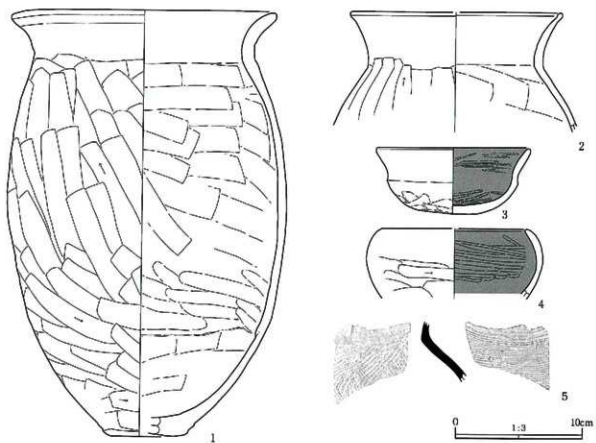
遺物所見 遺物はすべて覆土中から出土している。土器片の多くは細片もしくは小片であり、完形品は無い。土師器の坏が覆土下層から出土している。

時期 出土した土器から6世紀第一四半期に位置づけられる。





第33圖 SI - 10



第34圖 SI - 10 出土遺物

表 14 SI - 10 出土遺物観察表

遺物名	器種	法量	①地蔵(右杖)空色磁土製土器残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕	口径 21.0 底径 6.5 器高 33.8	①灰化磁土製 ②白色・赤褐色粒子 ③1層～底部2/3	外側：1層部傾斜ナダ、胴部ヘラケズリ。 内側：口径部傾斜ナダ、胴部ヘラケナダ、胴部下半接合エビナダ。	
2	土師器 甕	口径 (16.0) 底径 - 器高 19.9	①灰化磁土製赤褐色 ②白色・黒色粒 ③口径～胴部1/2	外側：口径部傾斜ナダ、体部傾斜ヘラケズリ。 内側：口径部傾斜ナダ、体部ヘラケナダ。	
3	土師器 埴	口径 12.2 底径 - 器高 5.3	①灰化磁土製赤褐色 ②白色粒子 ③口径～底部3/4	外側：口径部傾斜ナダ、体部ヘラ直壁による光沢あり。 内側：ミガキ、黒色処理。	
4	土師器 鉢	口径 (11.4) 底径 - 器高 5.6	①灰化磁土製赤褐色 ②白色・赤褐色粒 ③口径～体部1/4	外側：口径部傾斜ナダ、体部ヘラケズリ。 内側：傾斜直文状ミガキ、黒色処理。	
5	土師器 甕	口径 - 底径 - 器高 -	①黒光磁土製灰 ②白色粒子 ③口径1/4	外側：褐色オキメ。 内側：タタキの痕、ハケメか。	

### 3 礎石建物跡

SB - 1 (第 35・36・37・38・39 図)

基礎地業：総地業。南北 10 m × 東西 13 m 以上、面積 130 m<sup>2</sup>以上。

想定される建物：東西棟総柱式建物。桁行 4 間 × 梁行 2 間以上。

本調査（第 5 次調査）の後、調査区外の部分については高崎市教育委員会によって範囲確認調査を行った（第 6 次調査）。以下、第 5 次調査の成果および第 6 次調査の概要についてそれぞれの調査区ごとに記述する。

#### 1 第 5 次調査区（本調査）の状況

##### (1) 遺構

形式 総地業を伴う東西棟の総柱式建物と考えられる。

掘込地業の範囲と主軸方向 掘込地業の範囲は東西 13 m まで確認できた。市道によって掘込地業の東側は削られており、本来はさらに東側に続くものと考えられる。掘込地業の主軸方向は N - 0° である。

掘込地業の状況 掘込地業は厚さ 10 ～ 28 cm の表土層を除去し、その直下にある黒褐色土（基本土層Ⅱ層）上面で確認した。

掘込地業は確認面から深さ最大 75 cm で、東側約 3 分 1 の範囲はハードルーム層、残りの範囲は As - YP 軽石層および古墳時代の住居跡である SI - 4・9・10 の覆土にまで達しており、底面に段差が認められる。ハードルーム層を底面としている範囲には、幅約 15 cm の鋭利な掘り込みが連続しており、掘削痕の可能性がある。この痕跡は、As - YP 軽石層および住居跡の覆土を底面とする範囲には認められないが、軟弱な地盤のため残存していないものと考えられる。そのほか、底面を巡る溝などの施設は確認できない。



地業底面ハードルーム層の状況

掘込地業の内部は、角があるローム小ブロックと As - YP 軽石小ブロックを含む褐色土と暗褐色土を、交互に丁寧に積み固めた版築が施されている。版築の厚さは最大約 5 cm である。ローム小ブロックと As - YP 軽石小ブロックを多量に含む層がほとんどであるが、それらの含有量が少ない層もある。

ただしAs-YP軽石層および住居跡覆土が掘り込み底面に  
あたる範囲は、版築の下層に角があるローム大ブロックとAs  
-YP軽石ブロックと黒褐色土ブロックの混合土が、厚さ5～  
26cmと厚く搦き固められている。この層は、地盤の軟弱なAs  
-YP軽石層や住居跡の覆土上面を、水平かつ強固にするため  
の整地と考えられる。特に住居跡覆土にあたる箇所は、複数の  
層を積み上げている。底面を強固に整え、その後の版築土を水  
平に積み上げための工夫と考えられる。



版築の下層の整地状況

版築土の中には瓦片、礫は含まれておらず、砂や粘土など土  
質が明らかに異なるものも認められない。

下層建物の有無 掘込地業の下層には、掘立柱建物跡は確認できなかった。地業内にあるP7は長径56cm、  
短径48cm、深さ10cmである。覆土は版築土であり、掘込地業の一連の工程で掘削され、埋め戻されたも  
のと考えられる。

掘込地業周囲のピット 掘込地業の南辺と西辺の外側30～70cmの位置で、ピットを6か所確認した。こ  
れらのピットは、建物に付随する遺構と考えられる。

P1は長径50cm、短径42cm、深さ41cm、P2は長径46cm、短径42cm、深さ35cm、P3は長径36cm、  
短径28cm、深さ14cm、P4は長径28cm、短径26cm、深さ24cm、P5は長径40cm、短径38cm、深さ  
18cm、P6は長径36cm、短径22cm、深さ32cmである。底面までの深さは一定しておらず、P1の掘り込  
みだけがAs-YP軽石層まで達しており、ほかはすべてハードローム層中に底面がある。

覆土は、すべてロームブロックとAs-YP軽石をほとんど含まない黒褐色土の単層である。

P1とP2の間にも、ピットが配置されていると考えられるが、ここはSI-4の黒褐色土の覆土上面が  
確認面であり、精査を繰り返しても確認できなかった。

## (2) 大型礫

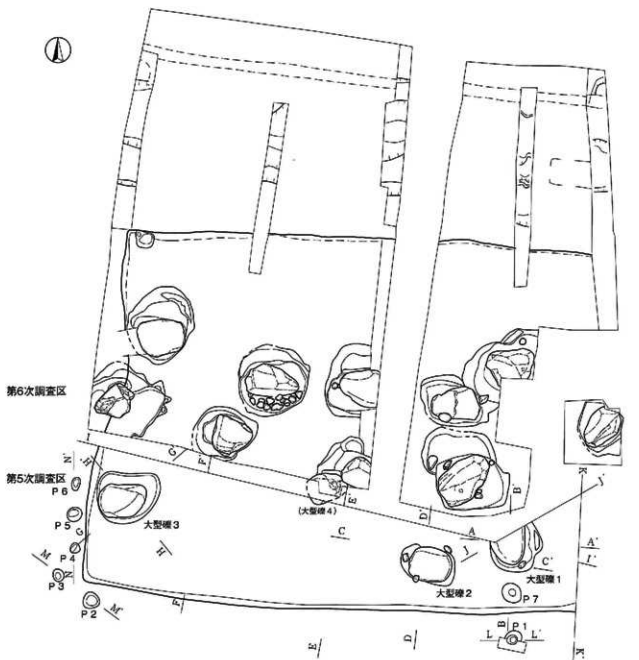
大型礫の出土状況 大型礫が3個出土しており、いずれも礎石と考えられる。大型礫1・大型礫2・大型礫  
3の石材は、輝石安山岩である。自然石を利用したもので、観察できる範囲では、柱を設置するための整形  
加工は認められない。

大型礫1・大型礫2・大型礫3はいずれも後世に掘り込まれた落とし込み穴内にあることがわかった。こ  
れら3個の大型礫は、掘込地業を確認した際にはその上面が露出していた。しかし、これは掘込地業を少し  
削った位置を確認面としたために露出したもので、本来はいず  
れも落とし込み穴の中に完全に埋もれた状態であったようである。

大型礫1(土層断面A-A'・B-B'・J-J')と大型礫3(土  
層断面G-G'・H-H')の落とし込み穴覆土は、浅間A軽石  
および角があるロームブロックを含む締りがない暗褐色土であ  
る。大型礫1には落とし込み穴に切られる土坑が土層断面で確  
認された(J-J' I層)。大型礫は伴っていなかったが、地  
業上面から掘り込まれ、その覆土には浅間A軽石を含む。この



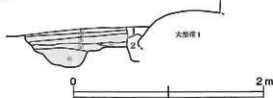
大型礫1の確認状況



A  
136.3m



B  
136.3m



A-A'

<掘込地帯>

- ① 褐色土主体
- ② 暗褐色土主体
- ③ 褐色土主体
- ④ 暗褐色土主体
- ⑤ 褐色土主体

①-⑤は硬質土、ローム小ブロックと浅黒-板状黄

色軽石小ブロックを含む、非常に強く締まっている。

B-B'

<掘込地帯>

- ① 褐色土主体
- ② 暗褐色土主体
- ③ 褐色土主体
- ④ 暗褐色土主体
- ⑤ 褐色土主体

①-⑤は硬質土、ローム小ブロックと浅黒-板状黄

色軽石小ブロックを含む、非常に強く締まっている。

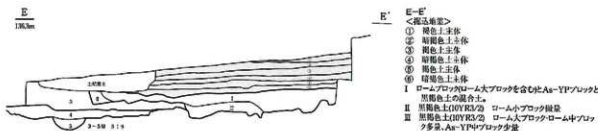
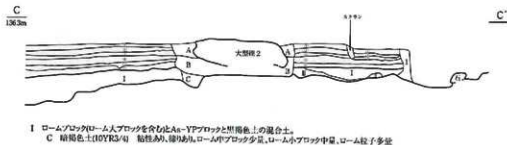
0 5m

<大型壙1部とし込み穴>

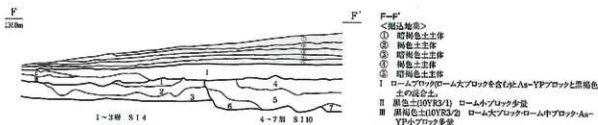
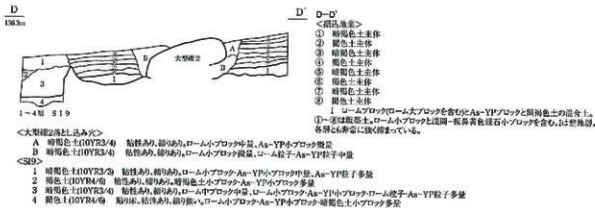
1 暗褐色土(10YR3/4) 硬質土、  
暗褐色、浅黒A級石などの軽石・  
ローム粒子・As-YF粒子多量、As  
-YP小ブロック少量

2 暗褐色土(10YR3/4) 硬質土、  
暗褐色、浅黒A級石などの軽石・  
ローム小ブロック・ローム小ブロック・  
As-YF小ブロック・ローム粒子・As  
-YP粒子多量

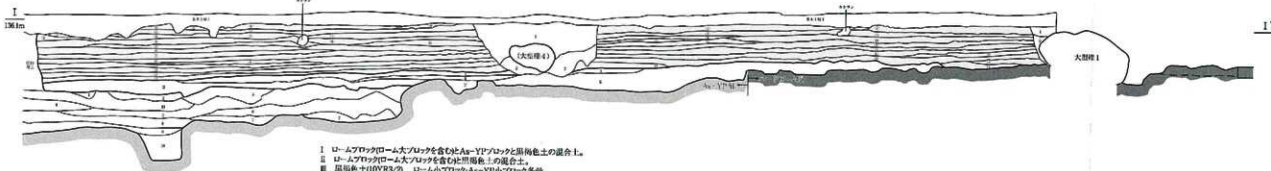
第35図 SB-1



①-⑦は飯塚土、ローム小ブロックと混同一般赤黄色石小ブロックを含む。I-IVは飯塚地層、各層とも津波に侵襲されている。  
 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、浅層A粒石を含む軽石ローム粒子-As-YF粒子多量  
 <SI>  
 1 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、ローム大ブロック少量、ローム小ブロック少量、As-YF小ブロック少量  
 2 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、ローム大ブロック少量、As-YF小ブロック少量  
 3 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、ローム大ブロック少量、As-YF小ブロック少量  
 4 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、ローム大ブロック少量、As-YF小ブロック少量



<SI>  
 1 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、ローム大ブロック少量、As-YF小ブロック少量  
 2 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、ローム大ブロック少量、As-YF小ブロック少量  
 3 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、ローム大ブロック少量、As-YF小ブロック少量  
 4 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、ローム大ブロック少量、As-YF小ブロック少量  
 5 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、ローム大ブロック少量、As-YF小ブロック少量  
 6 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、ローム大ブロック少量、As-YF小ブロック少量  
 7 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、ローム大ブロック少量、As-YF小ブロック少量



<大塚層上と読み次>  
 ① 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、浅層A粒石を含む軽石ローム粒子-As-YF粒子多量、As-YF小ブロック少量  
 ② 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、浅層A粒石を含む軽石ローム粒子-As-YF粒子多量  
 ③ 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、浅層A粒石を含む軽石ローム粒子-As-YF粒子多量  
 ④ 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、浅層A粒石を含む軽石ローム粒子-As-YF粒子多量  
 ⑤ 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、浅層A粒石を含む軽石ローム粒子-As-YF粒子多量  
 ⑥ 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、浅層A粒石を含む軽石ローム粒子-As-YF粒子多量  
 ⑦ 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、浅層A粒石を含む軽石ローム粒子-As-YF粒子多量  
 ⑧ 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、浅層A粒石を含む軽石ローム粒子-As-YF粒子多量  
 ⑨ 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、浅層A粒石を含む軽石ローム粒子-As-YF粒子多量  
 ⑩ 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、浅層A粒石を含む軽石ローム粒子-As-YF粒子多量  
 ⑪ 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、浅層A粒石を含む軽石ローム粒子-As-YF粒子多量  
 ⑫ 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締りあり、浅層A粒石を含む軽石ローム粒子-As-YF粒子多量



第36図 SB-1土層断面 (I)

G  
130.0m



G-G'

<掘込地層>

- ① 暗褐色土主体
- ② 褐色土主体
- ③ 暗褐色土主体
- ④ 褐色土主体
- ⑤ 暗褐色土主体

I ロームブロック・ローム大ブロックを含むAs-YFブロックと黒褐色土の混合土。  
II 暗褐色土(10YR3/2) ローム中ブロック中層  
①-⑤は掘込土、ローム小ブロックは区画一般赤黄色軽石小ブロックを含む、I区画は壁面緑、各層とも非常に強く固まっている。

<人遺物(土)の分布>

A 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り強い、浅層A層石などの軽石多量、ローム小ブロック・As-YF小ブロック少量

<S110>

- 1 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締り強い、ローム小ブロック・As-YF小ブロック少量、ローム粒子・As-YF粒子多量
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り強い、ローム中ブロック・ローム小ブロック・As-YF小ブロック・ローム粒子・As-YF粒子多量
- 3 褐色土(10YR4/6) 粘性あり、締り強い、ローム小ブロック・As-YF小ブロック・ローム粒子・As-YF粒子多量

G' H

H  
130.0m



H-H'

<掘込地層>

- ① 暗褐色土主体
- ② 褐色土主体
- ③ 暗褐色土主体
- ④ 褐色土主体
- ⑤ 暗褐色土主体
- ⑥ 褐色土主体

<人遺物(土)の分布>

- A 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り強い、浅層A層石などの軽石多量、ローム小ブロック・As-YF小ブロック少量  
1 暗褐色土(10YR3/2) 粘性あり、締り強い、ローム小ブロック・As-YF小ブロック少量、ローム粒子・As-YF粒子多量  
2 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り強い、ローム中ブロック・ローム小ブロック・As-YF小ブロック・ローム粒子・As-YF粒子多量  
3 褐色土(10YR4/6) 粘性あり、締り強い、ローム小ブロック・As-YF小ブロック・ローム粒子・As-YF粒子多量

J  
130.0m



J-J'

<掘込地層>

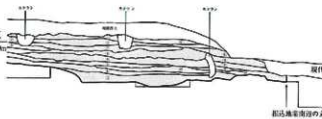
- ① 褐色土
- ② 暗褐色土
- ③ 褐色土
- ④ 暗褐色土
- ⑤ 褐色土

- <大穴掘1区と土み穴>  
1 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り強い、浅層A層石などの軽石・ローム粒子・As-YF粒子多量、As-YF小ブロック少量  
2 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り強い、浅層A層石などの軽石・ローム中ブロック・ローム小ブロック・As-YF小ブロック・ローム粒子・As-YF粒子多量  
3 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り強い、浅層A層石などの軽石・ローム中ブロック・ローム粒子・As-YF粒子多量  
4 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り強い、浅層A層石などの軽石・ローム小ブロック・ローム粒子・As-YF粒子多量

<土坑>

- I 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり、締り強い、浅層A層石などの軽石・ローム粒子・As-YF粒子多量

K  
130.0m

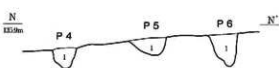
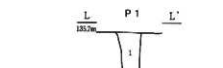


K-K'

<掘込地層>

- ① 褐色土
- ② 暗褐色土
- ③ 褐色土
- ④ 暗褐色土(ローム小ブロック・As-YF小ブロックを多く含む)
- ⑤ 褐色土
- ⑥ 暗褐色土(ローム小ブロック・As-YF小ブロックを多く含む)

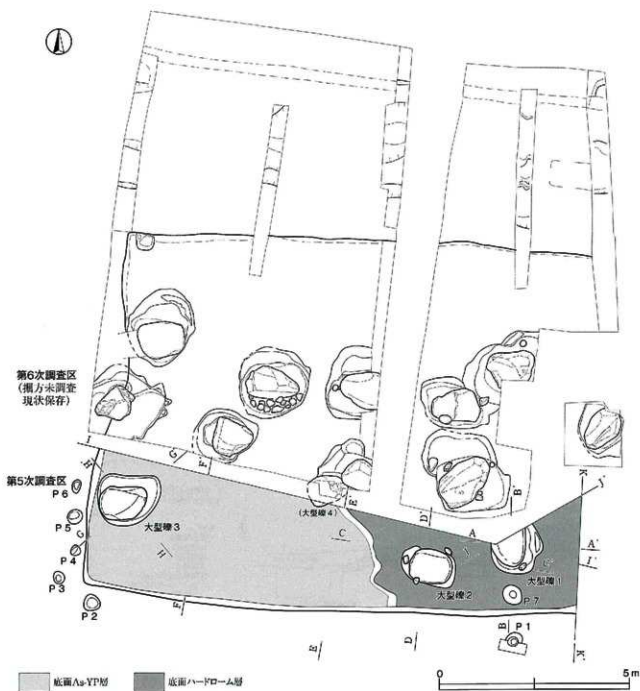
- ⑦ 暗褐色土
- ⑧ 褐色土主体
- ⑨ 暗褐色土
- ⑩ 褐色土
- ⑪ 暗褐色土
- ⑫ 褐色土



L-L'・M-M'・N-N'  
<P1~P6>  
I 暗褐色土(10YR3/2) ローム粒子中量、As-YF小ブロック少量



第37図 SB-1土層断面(2)



第38図 SB-1掘方

ように大型礫1・大型礫3は、18世紀後半以降に落とし込まれたものと考えられる。大型礫上面の平坦面は、大型礫1が東方向、大型礫3が北東方向に傾いている。いっぽう、大型礫2の落とし込み穴覆土は締りのある暗褐色土で、ほかの落とし込み穴と異なり浅間A軽石を含まないが、版築のように突き固められた状況も認められなかった。大型礫1・大型礫3の落とし込み穴とは覆土の様相が異なっており、落とし込んだ時期が異なるものと考えられる。大型礫2は上面の平坦面が東方向に傾



大型礫2の確認状況(1)

く。

また大型礫1と大型礫2の周りで確認した拳大の自然礫は、根石の一部と考えられ、これらも大型礫とともに落とし込まれた可能性が高い。

なお大型礫4としたものは、その大半が第6次調査区内にあるが、土層断面観察により落とし込み穴内にあることがわかった。その覆土は大型礫1・大型礫3と同様の状況を示している。礎石の掘え付け痕跡 礎石掘え付け痕跡や原位置を保つ根石などは確認できない。



大型礫2の確認状況(2)

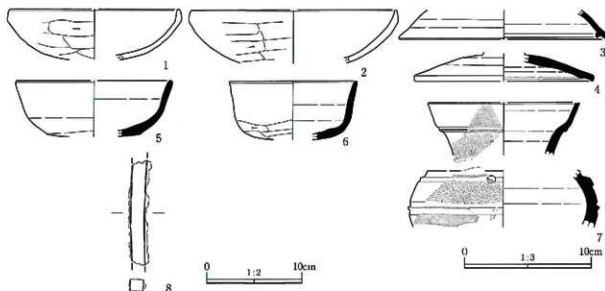
### (3) 遺物

瓦・炭化穀物の有無 瓦や炭化穀物は、掘込地業の内部およびその周辺からも出土していない。

出土遺物の年代 掘込地業の内部から土師器片と須恵器片が出土しており、いずれも地業土内に混入したものである。出土した遺物は8世紀前半以前におさまる。



大型礫3の確認状況



第39図 SB-1地業土内出土遺物

表15 SB-1地業土内出土遺物観察表(1)

遺物名	器種	法量	④構成(材料) ⑤色・陶質・胎土・気孔	⑥・製法・技法の特徴	備考
1	土師器 杯	口径(13.4) 底径 - 器高(4.0)	④緑化磁土體 ⑤赤褐色 ⑥口縁一底部1/6	外面：体一底部ヘラケズリ。 内面：口縁一底部ナデ。	
2	土師器 杯	口径(16.2) 底径 - 器高(4.2)	④緑化磁土體 ⑤赤褐色、白色粒子 ⑥口縁一底部1/6	外面：体一底部ヘラケズリ。 内面：口縁一底部ナデ。	地業土内出土。
3	須恵器 盃	口径(16.6) 底径 - 器高(2.2)	④還元磁土質 ⑤白色粒子 ⑥口縁1/8	外面：ロクロ整形。 内面：ロクロ整形。かえり貼付。	地業土内出土。



表 16 SB - 1 地業土内出土遺物観察表 (2)

遺物No	部位	数量	①構成(石種) ②色調③土質④保存	成・形状的特徴	備考
4	須恵器 蓋	口径 (14cm) 底径 - 器高 2.1	①薄灰 ②白色・黒色粒子	外面: ロタロ形状。天洋部縁部ヘラケズリ。 内面: ロタロ形状。	地業土内出土。
5	須恵器 杯	口径 (12cm) 底径 (7.5cm) 器高 14.5	①薄灰 ②白色・褐色粒子	外面: ロタロ形状。底部ヘラケズリ。 内面: ロタロ形状。	地業土内出土。
6	須恵器 杯	口径 (10cm) 底径 - 器高 14.7	①薄灰 ②褐色・白色粒子	外面: ロタロ形状。底部手持ちヘラケズリ。 内面: ロタロ形状。	地業土内出土。
7	須恵器 ハコ	口径 (12cm) 底径 - 器高 -	①薄灰 (オランダイッチク) ②灰 ③白色・赤褐色粒子	外面: 口縁部1段、肩部2段、体部2段の段状文。体部上段に門部 筋文1段。 内面: ナデ。	地業土内出土。
8	須 恵 器 破 片	長さ 5.6 幅 0.7 厚さ 0.6 重量 11.2g	①破片	断面方形。わずかに反る。	地業土内

## 2 第6次調査の概要

### (1) 掘込地業

本調査区では、東西124m×南北7.0mの範囲で総地業の掘込地業を確認している。遺構の北辺および西辺はそれぞれ検出している。南は調査区外へと延びているが、南接の5次調査区で確認した範囲と合わせると、同遺構の南北軸は10.0mとなる。東は市道により確認はできないが、東西軸については13mを超えるものと推測される。遺構の深さは遺構確認面より65～85cmである。土層は黄褐色土と黒色土が互層となる版築が明瞭であり、よくしまっている。

遺物については、掘込地業の土層中に土師器・須恵器片が見られる。

### (2) 大型礫

掘込地業範囲において、総数11石の大型礫を検出した。いずれも粗粒～中粒輝石安山岩の自然石であり、長軸で100cmを超えるものが多い。重量は半数が1tおよびそれ以上と極めて大型であることが理解される。これらの大型の礫は掘込地業を伴う大型建物の柱を支えた礎石であった可能性が考えられる。柱の当たりなど特段加工された様子は看取できないが、ほとんどの礫にやや平坦な面が認められるため、柱はこの平坦面を利用して建てられたものと推測される。

大型礫の検出位置(土坑の位置)は整然とはしていないが、東西方向では一定の間隔となる。礫は東西5石、南北は2列(5次調査の列を加えると3列)となる。礫の規模や重量を考慮すると当初の設置位置からは大きく移動していないと推測できるため、建物規模の推定が可能となる。これにより、建物は東西に長い総柱であり、規模は桁行4間×梁行2間以上であったことが考えられる。

すべての礫は土坑状の掘り込みの中より検出している。これら土坑の埋土中よりAs-Aや陶磁器・キセル等近世遺物が出土していることから、土坑は近世期に掘削されたものと判断している。これらの状況から、大型礫は近世期に現在の位置に移動されたことが推察される。

### (3) 小結

5・6次の一連の調査で検出した掘込地業は、両調査の成果を合わせると東西13m以上×南北10mの総地業となり、面積は130㎡以上となる。掘込地業の面積と礎石と推定される大型礫の数や配置などから、建物は東西棟の総柱と考えられ、規模は桁行4間×梁行2間より大きいものと推定される。(山本)



第6次調査検出状況（西から）

#### 4 土坑

##### SK-2（第41図）

規模：長軸160cm、短軸70cm、深さ68cm。 遺構所見：平面長方形、断面方形を呈する。自然堆積か。

遺物所見：土師器片が少量出土しているが、図化に及んだものはない。 時期：不明。

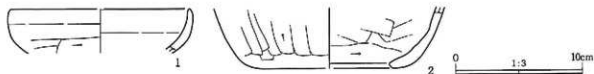
##### SK-3（第41図）

規模：長軸[134]cm、短軸[68]cm、深さ31cm。 遺構所見：平面長方形基調、断面方形を呈する。覆土は人為堆積か。

遺物所見：陶器小片が出土しているが、図化には及んでいない。 時期：近世か。

##### SK-6（第40・41図）

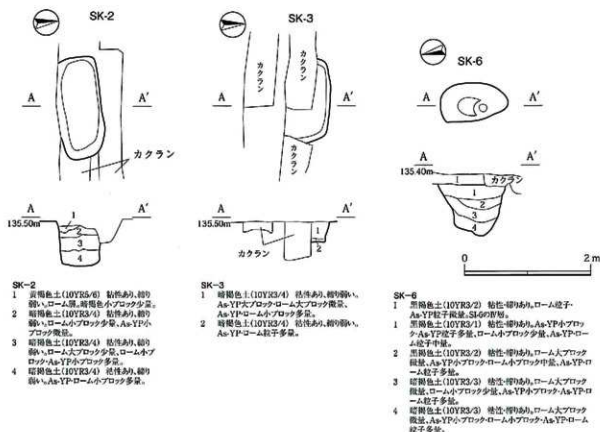
規模：長軸107cm、短軸61cm、深さ81cm。 遺構所見：平面楕円形、断面逆台形を呈する。SI-5と重複し、本土坑の方が新しい。 遺物所見：土師器片・須恵器片が少量出土している。そのうち図化したものは、土師器環（1）・甌（2）である。 時期：7世紀前半。



第40図 SK-6 出土遺物

表 17 SK - 6 出土遺物観察表

遺物%	器種	法量	①地成(石材) ②色調③形状④残存	成・形技法の特徴	備考
1	土師器 鉢	口径 (4.2) 底径 - 器高 (3.5)	①酸化還元不偏 ②白色粒、赤褐色 ③破片	外面: 口縁ナシ, 底部ヘラケズリ。 内面: ナシ。	
2	土師器 鉢	口径 (4.6) 底径 (4.6) 器高 (4.8)	①酸化還元不偏 ②白色粒、角閃石 ③破片	外面: 底部ヘラケズリ。底縁穿孔。 内面: 底部ヘラケズリ。	



第 41 図 SK - 2 · SK - 3 · SK - 6

## 5 遺構外出土遺物



第 42 図 遺構外出土遺物

表 18 遺構外出土遺物観察表

遺物%	器種	法量	①地成(石材) ②色調③形状④残存	成・形技法の特徴	備考
1	土師器 鉢	口径 (1.32) 底径 (1.0) 器高 3.3	①還元弱2% ②白色・黒色粒子 ③口縁-底部 1/2	外面: リクラ笠形, 底縁縁高あり。 内面: リクラ笠形。	

## VI まとめ

### 1. 律令前史－八幡中原遺跡周辺の古墳時代－

八幡中原遺跡のある八幡台地は東西に延びる小支谷によって北から「劍崎支台」、「若田支台」、「八幡支台」の3つに分けられ、八幡中原遺跡は中央の若田支台に広がる（「Ⅱ 遺跡の環境」参照）。

弥生時代後期では劍崎長瀬西遺跡など大型の集落跡が存在するが、古墳時代前期ではそれらと比べると小規模になる傾向を示す。これは古墳時代前期に入って低地部の開発が急速に進められるようになったことと関係してくるものと考えられる。再びこの八幡台地に集落が広く営まれるようになるのは古墳時代中期後半以降である。八幡中原遺跡においても古墳時代中期後半の住居跡が1次調査地点では3棟以上、第4・5次調査地点では15棟確認されており、中小規模の集落が点在していたことが分かる。また劍崎支台の劍崎長瀬西遺跡では柳子形立開付X字銜留楕円形鏡板付轡を伴う馬埋葬土坑や韓式系土器が出土しており、馬匹生産に携わった渡来系集団の存在が想定されている。八幡中原遺跡においても韓式系土器が出土しているが、その胎土は在地土器とほぼ同一であり、故地からの搬入品ではなく当地において韓式系土器を製作していたと考えられ、渡来系集団はこの地においてある程度の生産基盤を有していたと推測される。

また中期後半段階から後期にかけて八幡支台において平塚古墳、八幡子塚古墳、観音塚古墳と大型前方後円墳が続いて築造される。一方で劍崎支台には隳出した大型古墳を有さない群集墳が営まれる。5世紀代の劍崎長瀬西古墳群は円墳と方墳（積石塚）によって構成され、その出土遺物には半島系の垂飾付金製耳飾があることなどから、先の集落の状況と合わせても渡来系集団が弊られていることがわかる。ただしその群集墳内における墳丘の立地をみると、円墳は標高の高い位置にあり、方墳は標高の低い位置に広がることから、在地集団のもとに編成された渡来系集団の姿をみている見解もある<sup>(1)</sup>。劍崎長瀬西古墳群における最大の古墳である劍崎長瀬西古墳は直径約30mの円墳もしくは帆立貝形古墳で、副葬品として三角板革紐短甲とともに多量の石製模造品が出土している。これは前代、古墳時代中期前半の劍崎天神山古墳で確認された多量の石製模造品のあり方と類似しており、在地的な様相を副葬品からもみることができる。

ここで今一度、劍崎支台に立ってみると八幡支台に展開する大型前方後円墳は、劍崎長瀬西古墳群から見下ろすような位置にあることが分かる。その比高差はおおよそ20m近くある。低地を志向したとは想定しがたい八幡支台の前方後円墳が群集墳から見下ろされるような位置にあることは、おそらく八幡支台の南を東流する碓氷川が交通路として依然重要なルートであったことが推測される。下流には浅間山古墳や大鶴巻古墳など大型古墳が前代に築造され、さらに上流には初期横穴式石室を有する築瀬子塚古墳があることも関係してくるのであろうか。ところが最後の前方後円墳である観音塚古墳は、平塚古墳や八幡子塚古墳とは谷を挟んで北側の小規模な舌状台地上に位置している。碓氷川からは離れた位置に築造されたことは当時重要視された交通路の変遷との関係が考えられそうである。それは後に礎石建物跡群を有することになる八幡中原遺跡との関係性を想定しておきたい。（石丸）

(1) 土生田純之 2003「劍崎長瀬西遺跡1区における方墳の性格」『劍崎長瀬西5・27・35号墳』専修大学考古学研究室

## 2. 八幡中原遺跡周辺の礎石建物跡について (第43図)

### (1) 八幡中原遺跡と七五三引遺跡における掘込地業の調査例

七五三引遺跡 高崎市八幡町字七五三引 1263-7 ほか、1982 (昭和 57) 年に調査されている。報告では「土壇状遺構 (SX01)」と扱われている<sup>(41)</sup>。

この遺構は、東西長 12.0 m、南北長 11.8 cm の正方形を呈しており、面積 141.6 m<sup>2</sup> である。その正方形の範囲内には、ローム層まで 35 ~ 40 cm 掘り下げられており、ローム・ローム小ブロック・浅間-板鼻黄色軽石を主体とした黄褐色土と黒色土を交互に積み固めた版築が認められる。この遺構の主軸方向は記載されていないが、200 分の 1 の平面図で計測すると N - 7° ~ 8° - E である。

掘込地業から出土した遺物は、縄文土器や土師器の小片であり時期を特定できないが、古墳時代の SI - 7 を掘り込んでいる。瓦、礎石、炭化穀物は出土していない。

八幡中原遺跡 (第 3 次) 高崎市八幡町字中原 1280 番地 2 ほか、2010 (平成 22) 年に調査されている。報告では「基壇状遺構 SX-01」と扱われている<sup>(42)</sup>。

この遺構は南北長 15.6 m で、東西長は東側が調査区域外に延びるため不明であるが、面積は 100 m<sup>2</sup> を超えることが推測される。主軸方向は N - 7° - E である。掘り込みの中にロームと黒色土の版築が認められる。掘込地業から出土した遺物は 7 世紀後半のもので、「本遺構は古代以降に帰属すると判断される」。

調査区からは 4 個の大型の礎が出土している。そのうちの第 1 号大型礎は、版築土を掘り込んでいる土坑から出土している。大きさは長さ 104 cm、幅 50 cm である。第 2 号大型礎は、第 1 号大型礎のすぐ近くから出土しており、大きさは長さ 116 cm、幅 95 cm である。これら 2 個の大型礎は土坑から出土しており、「土坑内にはしまりのない As - B 軽石を包含する覆土が堆積しており、土坑掘削後に投棄されたもの」と考えられている。なお、これらの大型礎の性格と基壇状遺構との関連性は説明されていない。そのほか、瓦、炭化穀物は出土していない。

この報告では、七五三引遺跡の掘込地業と近在している状況から、「この一帯が一般集落とは異なった性格を有していた可能性」を指摘している。

### (2) 郡衙の存在の可能性について

八幡中原遺跡 (第 3 次) 報告後の 2011 (平成 23) 年に、「片岡郡衙に関連する遺跡群の報告」と題したレポートが発表される<sup>(43)</sup>。八幡六枚遺跡から出土した焼成前に「片岡郡」と刻まれた須恵器甕、八幡中原遺跡 (第 3 次) と七五三引遺跡の掘込地業の存在、東山道駅路との位置関係から、「ここでは、若田町・八幡町がある B 地域周辺に郡衙の存在を予察<sup>(44)</sup>」された。この B 地域とは、八幡中原遺跡と七五三引遺跡を含めた地域を指している。一般集落とは異なる性格に対して、「郡衙」という官衙の可能性を初めて指摘した。

### (3) 礎石建物跡の性格について

八幡中原遺跡第 5・6 次調査区は、第 3 次調査区と七五三引遺跡調査区の間位置している。ここで東西長 13 m 以上、南北長 10 m の主軸方向を真北にする総地業の掘込地業が確認された。

七五三引遺跡と八幡中原遺跡 (第 3 次) の掘込地業も、版築の土層断面から同じく総地業と考えられる。掘込地業は建物などを造営する際に、「その基礎となる地面をいったん掘り下げ、その内部を積み固めながら埋め戻す地盤改良工事」のことであり、近在した位置に 3 棟の建物跡が想定できる。これらの建物跡は総

地業を伴い、今回の調査では総地業の範囲内から、原位置を保っていない大型礎が14個出土しており、総柱式の建物跡が推測できる。これらの建物群は、周辺の調査状況も含めて寺院とは考えられないことから、礎石建ちの高床倉庫と考えられる。八幡中原遺跡（第3次）の大型礎も、高床倉庫に伴う礎石だろう。片岡郡衙の存在が指摘されているこの一帯で見つかった高床倉庫群は、「正倉」の可能性もある。

調査された3棟以外にも、七五三引遺跡の建物跡の南側にあるつくし公園脇のグラウンド内に、周囲より硬い土質の場所が1か所あり、掘込地業の可能性が考えられるという。また、八幡中原遺跡第5・6次調査区の南側の道路脇には、礎石と思われる大型礎が置いてある。調査中に地元市民に聞き取り調査を行ったところ、この近くで下水道工事の際にも大型礎が出たという話が聞けた。

#### (4) 八幡中原遺跡第5・6次調査の礎石建物跡について

八幡中原遺跡（第5・6次）の礎石建物跡は、掘込地業の範囲が南北長10m、東西長13mよりさらに東側に延び、面積130㎡以上である。礎石と考えられる14個の大型礎はすべて近世以降に掘削された大型礎落とし込み穴から出土しており、原位置は留めていない。東西に5個、南北に3個の大型礎が並んでいることから、桁行4間以上、梁行2間がまず考えられ、掘込地業北辺の大型礎が認められない列に4個目の大型礎が配置されていたと仮定すると、梁行3間の総柱式建物が想定できる。第5次調査の掘込地業の内部から土師器片と須恵器片が出土しており、その土器群は8世紀前半以前におさまっている。この礎石建物跡の造営年代は第6次調査で出土した土器群も含めて総合的に検討する必要がある、今回は出土した土器群の年代を示すだけに留める。

#### (5) 掘立柱建物跡と官的遺物

掘立柱建物跡は、八幡中原遺跡（第3・4次）で合計5棟が調査されている。すべて側柱式と報告されているが、全容については調査区域外に延びているため不明である。柱穴の形状は、第3次調査のSB-4だけが円形であり、それ以外の4棟はすべて方形である。柱穴の規模は、第4次調査のSB-1・2の2棟だけが長軸長100cmを超す。この2棟の主軸方向は、SB-1がN-7°-E、SB-2がN-8°-Eであり、八幡中原遺跡（第3次）および七五三引遺跡の礎石建物跡の主軸方向と同じである。この主軸方向は、八幡中原遺跡（第3次）で調査された区画溝の性格が想定されるSD-3と同様である。八幡中原遺跡（第5・6次）の礎石建物跡だけは真北を向くため違いがあるが、礎石建物跡と八幡中原遺跡（第4次）の掘立柱建物跡には、主軸方向で共通性が認められる。以上のように掘立柱建物跡については不明な点が多く、礎石建物跡の前身施設について明らかでない。

特徴的な遺物としては、八幡中原遺跡（第4次）でSD-1から円面硯1点、SD-2から平瓦1点が出土している。瓦の年代は小片のため不明である。溝跡の時期は、いずれも古代に位置付けられている。この周辺一帯において地元住民からも瓦が出土したという話は聞けなかった。（早川）

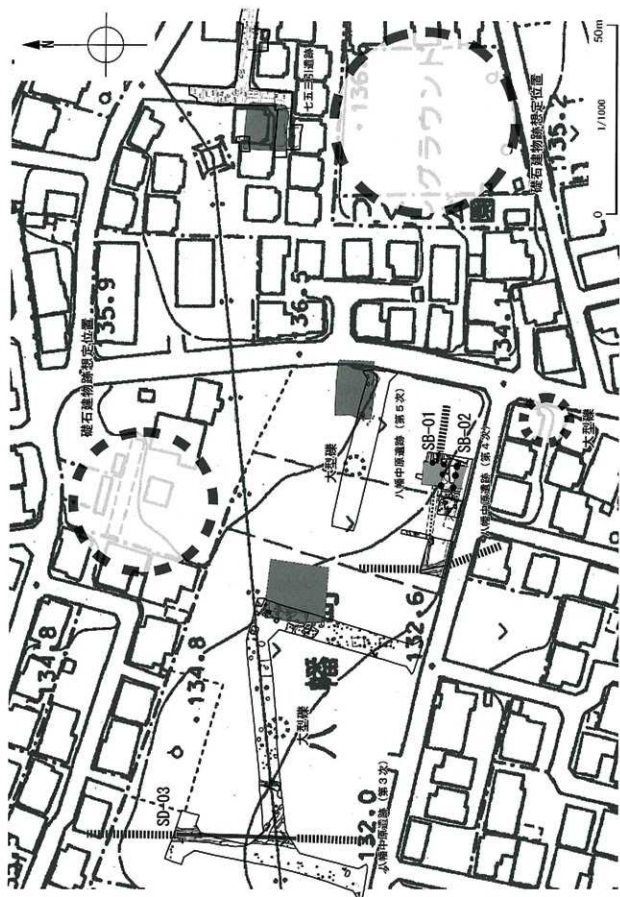
(1) 田村孝 1984 『七五三引遺跡』 高崎市教育委員会

(2) 石丸敏史・田口一郎 2011 『八幡中原遺跡3』 高崎市教育委員会

(3) 石丸敏史・高林真人・清水豊 2011 『片岡郡衙に関する遺跡群の報告』『群馬文化』第307号 群馬県地域文化研究協議会

(4) 註(3) 文献中の清水豊「四、小碁」より。

(5) 山中敏史編 2003 『古代の官衙遺跡1 遺構編』奈良文化財研究所



第43圖 礎石建物跡・掘立柱建物跡配置圖

# 写真図版







調査区全景1  
(南西から北東方向。中央鉄塔付近が七五三引道跡。)



調査区全景2  
(南東から北西方向)



調査区全景3  
(上が北)



SI-1



SI-1掘方



SI-2



SI-2カメラ



SI - 2 遺物出土状況



SI - 2 掘方



SI - 3



SI - 4



SI - 4 韓式土器出土状況



SI - 4 貯蔵穴遺物出土状況



SI - 4 掘方



SI - 5 カマド



SI - 5 カマド袖部断削状況



SI - 5 遺物出土状況



SI - 5 掘方



SI - 6



SI - 6 遺物出土状況



SI - 7 掘方



SI - 8



SI - 8 カマド



SI - 8 遺物出土状況



SI - 8 土層堆積状況



SI - 8 掘方



SI - 9 カマド



SI - 9 遺物出土状況



SB - 1 平面検出状況



SB - 1 完掘状況 (1)



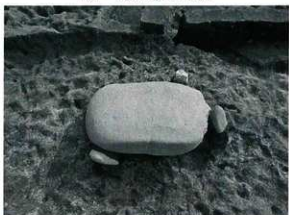
SB - 1 完掘状況 (2)



SB - 1 大型礫出土状況



SB - 1 大型礫 1



SB - 1 大型礫 2



SB - 1 大型礫 3



SB - 1 構築状況 (1)



SB - 1 構築状況 (2)



SB - 1 構築状況 (3)



基本土層



SI1 - 1



SI1 - 2



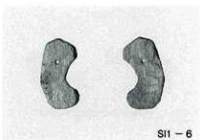
SI1 - 3



SI1 - 4



SI1 - 5



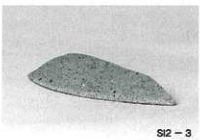
SI1 - 6



SI2 - 1



SI2 - 2



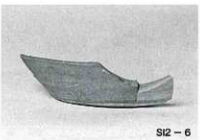
SI2 - 3



SI2 - 4



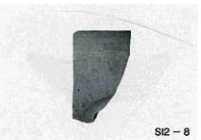
SI2 - 5



SI2 - 6



SI2 - 7



SI2 - 8



SI2 - 9



SI2 - 10



SI2 - 11



SI3 - 1











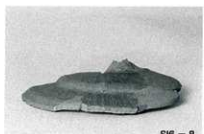
SI6 - 5



SI6 - 6



SI6 - 7



SI6 - 8



SI6 - 9



SI6 - 11



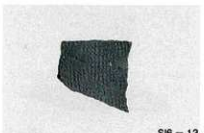
SI6 - 10



SI6 - 10 (B)



SI6 - 12



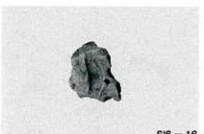
SI6 - 13



SI6 - 14



SI6 - 15



SI6 - 16



SI6 - 17



SI6 - 18



SI7 - 1



SI7 - 2



SI7 - 3



SI7 - 4



SI7 - 5



SI7 - 6



SI7 - 7



SI7 - 8



SI7 - 9



SI7 - 10



SI8 - 1



SI8 - 2



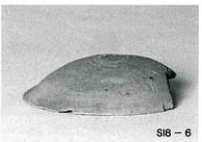
SI8 - 3



SI8 - 4



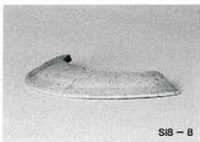
SI8 - 5



SI8 - 6



SI8 - 7



SI8 - 8



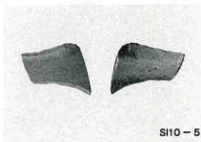
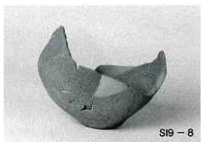
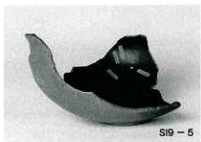
SI8 - 9



SI8 - 10



SI8 - 11





SB1 - 1



SB1 - 2



SB1 - 3



SB1 - 4



SB1 - 5



SB1 - 6



SB1 - 7(1)



SB1 - 7(2)



SB1 - 8

## 報告書抄録

フリガナ	ヤワタナカハライセキ		
書名	八幡中原遺跡5		
副書名	宅地分譲工事に伴う埋蔵文化財発掘調査		
巻次			
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書		
シリーズ番号	第328集		
編著者名	早川麗司 石丸敦史 山本ジェームズ		
編集機関	有限会社 毛野考古学研究所 〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 Tel.027-265-1804		
発行機関	有限会社 毛野考古学研究所		
発行年月日	平成26年6月30日		

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
八幡中原遺跡	群馬県高崎市 八幡町字中原 1276番地1、 1280番地1	102020	571	36° 20' 35"	138° 56' 47"	20130826 ～ 20131011	276.25㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
八幡中原遺跡	集落 官衙	古墳 古代	住居跡 礎石建物跡 土坑	10棟 1棟 8基	土師器 須恵器 韓式系土器 石製模造品	総地盤を有する礎石建物跡が 1棟確認された。

高崎市文化財調査報告書第328集

### 八幡中原遺跡5

-宅地分譲工事に伴う埋蔵文化財発掘調査-

平成26年6月25日印刷

平成26年6月30日発行

編集 / 有限会社 毛野考古学研究所  
発行 / 有限会社 毛野考古学研究所  
印刷 / 朝日印刷工業株式会社



